

令和6年度
事業報告書

社会福祉法人 善通寺市社会福祉協議会

目 次

I	事業報告概況	．．．．．	1
II	各部門事業報告		
1	法人運営部門		
1-1	組織運営	．．．．．	3
1-2	財務運営	．．．．．	4
2	地域福祉事業部門		
2-1	地域共生社会の実現に向けた市社協、 地区社協の活動強化	．．．．．	6
2-2	地域福祉活動支援事業の推進	．．．．．	11
3	ボランティア活動部門	．．．．．	19
4	相談支援事業部門	．．．．．	21
5	善通寺市地域支え合いセンターここ家事業部門	．．．．．	29
6	在宅福祉事業部門		
6-1	居宅介護支援事業ホームヘルプサービス	．．．．．	31
6-2	ホームヘルプサービス	．．．．．	31
6-3	通所サービス事業	．．．．．	32
6-4	通所型一般介護予防事業	．．．．．	32
7	共同募金運動への協力	．．．．．	33
	【参考資料】		
別表1	令和6年度会員会費の状況	．．．．	35
別表2	令和6年度地区社協活動状況	．．．．	36
別表3	善通寺市地域支え合いセンターここ家利用状況等一覧表	．．．．	47

事業報告概況

地域共生社会の実現に向け、住民主体の地域福祉活動として「第4次地区（地区社協）地域福祉活動計画」の推進及び「第5次地区（地区社協）地域福祉活動計画」の策定の支援を行うとともに、居場所づくり等の地域活動を支援した。コミュニティソーシャルワーカー業務や生活困窮者自立支援事業等を実施し、生活の困りごとを抱える方々や生活困窮世帯への相談支援を地域関係者との連携により行った。

また、重層的支援体制整備事業の移行準備として多機関協働体制整備事業を市より受託し、包括的な支援体制の構築のため、市関係各課とのプロジェクト会議を実施し、地域生活課題の把握と分析、情報連携シートの作成を行うとともに、複雑化・複合化した生活課題を抱える世帯の支援を多機関が協働し行うため支援会議（重層的支援会議）を実施した。

そして、地域福祉を推進する中核的な団体として組織運営と事業活動の強化を図るため、市社協強化発展計画に基づき、職員・各係が連携協働し、事務事業の効率化やコミュニティソーシャルワーク機能の強化を図った。

1 法人運営関係

- (1) 市社協強化発展計画に基づき、ICT、DXを活用した事務事業の効率化については、前年度同様、キントーン（クラウド）を活用し、受付業務、CSW、福祉サービス利用援助事業、生活困窮者自立支援事業、生活福祉資金等の輻輳する相談業務等の記録を一括して運用した。また、庶務関係の行政機関等への手続きについてはGビズIDを取得し、事務の更なる効率化を図った。
- (2) 地域福祉活動の重要な財源である会費及び共同募金運動については、自治会長、民生委員、地区社協役員等の協力により推進する中で、幅広く地域の方からご協力いただけるよう振込による納入など新しい方法等を検討し、実施した。
- (3) 香川県社会福祉協議会からの要請により珠洲市災害ボランティアセンター運営支援に職員を派遣した。また、近年、激甚化する災害に備え、東かがわ市社協が実施する災害ボランティアセンター運営訓練に参加し、令和7年度においては、プロジェクトチームにおいて実施してくこととした。

2 地域福祉関係

- (1) 第5次地区地域福祉活動計画の策定支援において、地区ごとの地域アセスメントを行い、地区社協役員会や策定委員会および座談会等で分析結果を説明した。また、地区の座談会では、地域の方々が、自分たちの地域の強みや課題を出し合い、これからの地域福祉活動について考える機会となるよう後方支援を行った。
- (2) 市委託事業のコミュニティソーシャルワーカー業務については、民生委員や地域住民及び関係機関から寄せられる個別相談、地域福祉活動の相談に対して、必要なサービスへつなぐ等調整をした。
- (3) 重層的支援体制整備事業の移行準備として、市から多機関協働体制整備事業の委託を受け、市と協働して包括的な支援体制の構築のため、市および社協職員向けの研修を実施し、地域共生社会についての理解を深めた。また、市関係各課とのプロジェクト会議や、市内の相談支援に関わる事業所へのアンケート実施を通して、地域生活課題や多機関協働における連携の課題等の把握に努めた。
- (4) 地区社協関係者等地域住民の主体による「第4次地区（地区社協）地域福祉活動計画」の推進を支援するとともに、地域共生社会の実現に向けた居場所づくり等の地区社協モデル事業を地区社協会長連絡協議会において協議し、3地区社協（東部、筆岡、吉原）における居場所づくりを支援した。
- (5) 民生委員・児童委員と地区社協の連携協働により見守り活動ネットワーク事業や要援護者安否確認

事業を推進するとともに、ふれあい・いきいきサロンの活動を支援し、日頃から気かけあい、支え合う地域づくりを推進した。また、南部地区民協で、子ども民生委員活動を実施できるよう、先進地の視察や学校等の調整を行った。

- (6) ひきこもりに関する居場所事業として「ひきこもりに関するミニ勉強会」や、「家族の会」を実施した。また、生活のしづらさを抱える方が安心して過ごせる居場所づくりとして「ここめし」、「ここめし女子会」を地域関係者のご協力を得ながら定期的に実施し、地域関係者や専門職とつながりをゆるやかに持ち続けられる伴走型支援を行った。
- (7) 認知症、知的障がいその他精神上の障がいにより判断能力が不十分な人の権利擁護を支える成年後見制度の利用促進を図ることを目的に、市民後見人養成支援事業を受託し、市民後見人フォローアップ研修を3回実施した。
- (8) 生活福祉資金貸付事業コロナ特例貸付のフォローアップ支援を、本会自立相談支援員や家計改善支援員と協働し、8月と12月に食料品の配布会と相談会を実施するなど、生活困窮世帯の相談支援を推進した。

また、複合的な課題を抱える世帯に対して、多機関協働体制整備事業の支援会議（重層的支援会議）に諮り、関係機関との連携をはじめ、本会の個別支援と地域支援を一体的に実施して、世帯の自立に向けて対応した。

3 在宅福祉関係

- (1) 訪問介護、通所サービスの利用者の減少、人件費増加により事業収益が減少した。
- (2) 虐待等防止委員会、感染症対策委員会を設置し適切な事業所運営を進めていくために、虐待の防止、身体拘束等防止、感染症の予防及びまん延防止に向けた取り組みを行った。
- (3) 国の処遇改善支援金の活用により、介護職員の人材確保に努めた。

1 法人運営部門

目標 経営組織の充実強化を図る。

- (1) 経営組織のガバナンスの強化
- (2) 事業運営の透明性の強化
- (3) 財務規律の強化

事業実績

- 1 理事会 4回
- 2 評議員会 2回
- 3 監査 1回（会計業務指導1回）
- 4 評議員選任・解任委員会 2回
- 5 定例運営会議 12回
- 6 在宅業務改善会議 7回
- 7 在宅福祉係定例会 10回
- 8 社協強化発展計画（3か年）の推進

社協強化発展計画の使命・基本理念を達成するため、基本目標・経営戦略に基づき、実施計画を推進し、9月に進捗状況等の中間評価を行った。また、令和7年6月に令和6年度の進捗状況等の年間を通じての評価を実施し、理事会・評議員会で報告する。

- (1) 職員全体で課題の共有、協議等が実施できるよう地域福祉係を中心に、係連携会議を実施した。
 - (2) 外部アドバイザーに依頼し、課題等への対応方法やマネジメント研修を実施し、組織全体の底上げを図った。
 - (3) 市社会福祉課と社協運営補助金、重層的支援体制整備事業について協議を行い、令和7年度においては、社協運営補助金は前年度と同様の割合による補助金要求、重層的支援体制整備事業は多機関協働体制整備事業に加えてアウトリーチ等を通じた継続的支援事業、生活困窮者関係は、生活困窮者支援等のための地域づくり事業を新規に受託することとなった。
 - (4) ICT、DXを活用した事務事業の効率化については、前年度同様、キントーン（クラウド）を活用し、受付業務、CSW、福祉サービス利用援助事業、生活困窮者自立支援事業、生活福祉資金等の輻輳する相談業務等の記録を一括して運用した。また、庶務関係の行政機関等への手続きについてはGビズIDを取得し、事務の更なる効率化を図った。
 - (5) 災害ボランティアセンター運営に関する研修を実施するにあたり、東かがわ市社協が実施する災害ボランティアセンター運営訓練に参加し、令和7年度においては、プロジェクトチームにおいて実施してくこととした。
- 9 「第3次ニーズ対応型社協アクションプラン」（香川県社協、県内市町社協連絡協議会策定）に基づく活動の推進

中讃圏域での災害ボランティアセンター等の一体的な推進の協議、県内広域での連携事業の検討については、事務担当レベルでの話だけに留まり、正式に協議等は実施できなかった。

- 10 災害時・感染症のBCP（事業継続計画）、職員初動参集マニュアルの点検

昨年度、策定した介護保険法及び障害者総合支援法の事業継続計画（BCP）の見直しを年度当初に実施した。また、県が実施する障害福祉サービス事業所指導監査においても確認及び承認を得ることが出来た。

- 11 社会福祉センターの管理、運営

地域福祉、住民福祉活動の拠点として相談業務をはじめ、市民福祉の向上と健康増進を図るため、効果的な管理運営を行い、市、ボランティア団体及び関係団体 1, 344回の利用があった。

・利用者人数：12, 011 人（5年度：12, 120人）

評価と課題

- ・ 定款その他の規程に従い、適正な組織運営に努めた。
- ・ 社会福祉法人充実残額は発生しなかった。
- ・ 職員全体で課題の共有、協議等が実施できるよう地域福祉係を中心に、係連携会議を実施し、多機関協働体制整備事業など重点事業について理解を深めることができた。

1-2 財務運営

1 自主財源の増強

目標 地域における住民相互の助け合いのための、地域福祉財源としての自主財源を確保する。

事業実績

(1) 会費収入 6,427,000円(5年度 6,685,000円)

会費状況表(別表1 35P)

(2) 寄附金収入

(単位:円)

種別	令和6年度		令和5年度	
	金額	件数	金額	件数
社会福祉事業積立寄附	1,065,502	19	1,015,331	16
歳末協賛事業寄附	800,000	1	800,000	1
障害者福祉事業寄付	56,017	1	60,956	1
生きがいひろば事業寄附	194,850	-	214,440	-
寄付物品(備品)	0	-	0	-
合 計	2,116,369	21	2,090,727	18

(3) 事業収入

(単位:円)

事業名	令和6年度金額	令和5年度金額
車椅子貸出事業	135,000	107,000
広報誌広告事業	70,000	75,000
健康増進事業	109,720	115,560
福祉サービス利用援助事業	633,000	604,500
法人後見事業	305,000	180,000
障害者生活支援相談事業所使用料	189,500	189,500
通所サービス事業	433,350	517,650
生きがいひろば事業	200,000	193,000
介護保険対象外サービス事業	75,880	8,520
生活福祉資金貸付事業手数料	68,000	72,000
ここめし参加費	38,400	31,000
ここ寄席参加費	12,000	10,400
合 計	2,269,850	2,104,130

(4) 積立金の効果的運用（運用状況）

（単位：円）

積立金等名称	前年度末現在高	本年度取崩額	本年度積立額	本年度末現在高	利息
基本財産	1,000,000	0	0	1,000,000	20
振興財団退職給付引当資産	5,548,520		620,148	6,168,668	
退職給付引当資産	11,695,594	0	0	11,695,594	2,136
社会福祉事業積立資産	47,286,904	4,000,000	1,065,502	44,352,406	6,248
障害者福祉事業積立資産	19,600,648	0	0	19,600,648	3,820
地域福祉事業積立資産	11,001,383	1,000,000	0	10,001,383	3,066
ボランティア事業積立資産	7,366,951	0	128	7,367,079	128
健康増進事業積立資産	1,523,824	0	0	1,523,824	
介護保険事業安定積立資産	15,026,737	0	0	15,026,737	4,454
合計	120,050,561	5,000,000	1,685,778	116,736,339	19,872

評価と課題

- ・ 本会の重要な地域福祉財源である会費収入については、前年度対比で△258,000円であり、年々減少傾向にあることから、ホームページや広報誌を通じた周知等を強化するとともに、電子決裁や振込による納入方法を推進していく。
- ・ 積立金の社会福祉事業積立資産取崩については、職員の給与改定に伴い、4,000,000円の取崩しを実施した。地域福祉事業資産取崩しは、当初の予算通りであった。積立金の運用については、理事会の承認を得て、資金運用計画に基づき実施した。

2 公費収入の強化

目標 地域福祉推進の中核的団体として、安定した事業運営ができる健全な財政運営を図るため、公費収入の確保をしていく。

事業実績 補助金、受託事業収入の確保

（単位：円）

種 別	令和6年度金額	令和5年度金額
補助金（市、県社協）	36,745,000	30,999,000
受託事業収入（市、県社協）	56,142,650	50,585,270
合 計	92,887,650	81,584,270

評価と課題

- ・ 社会福祉協議会運営補助金については、市要綱に基づく補助率により予算要求を行い、認められたが、会費・寄附金等が減少する中、今後も継続して協議を行い、補助金要綱等の見直しを含めたルール化を要望していく。
- ・ 委託金の増については、重層的支援体制整備事業多機関協働体制整備事業の受託を新規に受託したことによるものである。
- ・ 令和7年度から重層的支援体制整備事業多機関協働体制整備事業に加えて、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業を、また、新規受託事業として、生活困窮者支援等のための地域づくり事業を受託することとした。

2 地域福祉事業部門

2-1 地域共生社会の実現に向けた市社協、地区社協の活動強化

目標 地域の様々な生活課題への対応や地域を基盤にした解決につなげる支援や仕組みづくりを推進するため、小地域における住民主体の福祉活動を一層強化するとともに、社会福祉法人、民生委員・児童委員等関係機関や団体との連携、協働の取り組みを推進し、地域のつながりの再構築を図り、地域共生社会の実現に向けた実践を進める。

事業実績

(1) 市社協の組織と活動の強化

ア 地域福祉活動推進のネットワークづくり

社会福祉施設、民生委員・児童委員、相談支援機関、行政との協働、連携体制づくりを意識しながら、相談支援活動を行うとともに各会議、研修会を実施した。また、地域アセスメントシートの項目について検討を行い、地区ごとの人口動態、社会資源などを把握し、地区ごとのグラフ等を作成し、地区社協総会や地区計画づくり及び地区民児協の研修等で、地区の状況について説明した。

イ 住民主体の小地域福祉活動の活性化

地区社協活動の推進やふれあい・いきいきサロン活動の充実、見守り活動ネットワーク事業の拡充強化に取り組んだ。また、本年度は、第5次地区地域福祉活動計画策定の時期にあたり、策定委員会、座談会を開く等を通じ、小地域福祉活動の現状と課題を振り返る機会となった。

ウ 福祉教育、福祉活動の担い手づくり

地域の担い手育成づくりとして、地域福祉リーダー研修会及びふれあい・いきいきサロンパワーアップ研修会を実施した。また、地区地域福祉活動計画の策定に向けての研修会として、各地区から地区社協活動に携わる5名程度が参加し、研修会を実施した。加えて、善通寺市地域支え合いセンターここ家での活動の推進、民生委員児童委員の定例会や見守り活動推進員の連絡会等において福祉活動の理解及び協力を促進した。

・地域福祉リーダー研修会の実施

日 時 令和7年2月28日（金）

研修先 東かがわ市社会福祉協議会

内 容 災害にも強いまちづくり～東かがわ市の取り組みについて～

東かがわ市における福祉委員活動について、避難行動要支援事業への取り組み、防災活動について（地域との連携）、令和6年度台風10号被害による災害ボランティア活動支援報告 等

参加者 地区社協会長、地区連合自治会長、地区民生委員会会長等 24名
市社協職員 6名

・ふれあい・いきいきサロンパワーアップ研修会

日 時 令和6年10月25日（金）13:30～15:00

場 所 ZENキューブ 4階多目的室

内 容 「サロンでつながり！地域力アップ！」

講 師 あそびとお話のデリバリードコデモ 榎本 英樹氏

参加者 66人（サロン代表者等）

・ふれあい・いきいきサロン交流会

日 時 令和6年10月25日（金）15:30～16:30

場 所 ZENキューブ 4階多目的室

参加者 17人

・地域福祉研修会の実施

日 時 令和6年8月5日（月）

場 所 善通寺市市役所 4階大会議室

内 容 みんなで創る はぐくむ 安心して暮らせるわがまちの計画づくり
～持続可能な地域づくりを一緒に考える～

講 師 社会福祉法人琴平町社会福祉協議会 会長 越智 和子氏
(全国社会福祉協議会 地域福祉推進委員会 委員長)

参加者 地区社協関係者49名、市職員（保健課、子ども課、高齢者課、社会福祉課）6名
市社協職員 9名 四国学院実習生 2名

・ボランティア入門講座の実施

日 時 令和7年3月27日（木）

場 所 ZEN キューブ 3階研修室

内 容 「食」をテーマとしたボランティアの入門講座

講 師 あそびの工房もくもく屋 事務局長 田川 雅規氏

参加者 31名

エ 総合的な相談支援体制の整備

相談支援事業の強化として、生活困窮者自立相談支援事業、家計改善支援事業、生活福祉資金貸付事業（フォローアップ支援含む）、福祉サービス利用援助事業及び香川おもいやりネットワーク事業の効果的連携により制度の狭間の課題や複合多問題のニーズに対応するとともに、民生委員・児童委員や地区社協と連携し、住民の身近な地域で相談がつながる体制づくりを進めた。また、地域活動の拠点整備として、地域支え合いセンターここ家における地域住民の交流、支え合い活動、居場所づくりを推進した。

(2) コミュニティソーシャルワーカー（CSW）業務の推進【市受託事業】

ア 地域生活課題の把握（ニーズキャッチ、アウトリーチ）

第5次地区地域福祉活動計画の策定年度であったため、各地区の座談会で地域アセスメントの分析結果を作成し、説明した。また、座談会では地域の自慢や社会資源の発掘、困りごとなどのニーズを拾い、地域で何ができるか地域住民と一緒にアイデア出しを行なった。

イ 課題解決のための調整（コーディネート）

民生委員や地域住民及び関係機関から寄せられる個別相談、地域福祉活動の相談に対して、必要なサービスへつなぐ等調整をした。また、必要に応じて地域住民や関係機関が集まり、話し合いの場を調整した。

移動販売車の運行開始に向けて、市と協議する場を設け、地域から利用希望があれば調整を行なった。

ウ 様々な活動者や団体、機関が協働するきっかけの機会づくり（プラットフォーム）

地域ネットワーク会議を開催し、共通する課題等について様々な関係機関等が集まり、理解を深めるとともに解決に向けて協議を行なった。また、地区地域福祉活動計画策定のための座談会では、地域住民が集まり、地域の課題等について協議をした。

中讃西圏域の食支援を通じた取り組みの中で、丸亀市の第1回こども食堂・居場所づくり等ネットワーク会議に参加した。

エ ネットワークづくり（ネットワーク）

子どもの支援を目的とした食料品や日用品等の寄附を、支援団体につないだ。

- ・重層的支援体制整備事業多機関協働体制整備事業プロジェクト会議に参加
- ・生活支援コーディネーターの協議体に参加
- ・香川おもいやりネットワーク事業地域ネットワーク会議に参加

・地域ケア会議に出席

オ 新しいサービスや資源づくり（ソーシャルアクション）

地域の居場所づくりに向けての働きかけや調整、当日の運営支援を行なった。（東部地区の居場所「ミニここ家」、吉原地区の居場所「キッズここ家 in よしはら」、筆岡地区の居場所「カフェふでおか」）

南部地区での子ども民生委員活動開始に向けて調整を行ない、先進地への視察研修や小学生への出前授業を実施した後、見守り対象者宅へ民生委員と小学生と一緒に訪問活動を実施した。

カ C S Wシステムの活用

相談内容の共有やC S W業務、課題の可視化のため、相談受付簿や地域支援会議報告書等をキントーンを活用して記録した。

① 地域支援会議実施件数 212件

C S Wの内訳（重複あり）

C S W機能	件数	割合（％）
ニーズキャッチ・アウトリーチ	182	26.7
コーディネート	160	23.5
プラットフォーム	119	17.4
ネットワーク	176	25.8
ソーシャルアクション	45	6.6
合計	682	100

② 相談受付件数 4,676件

C S Wの内訳（重複あり）

C S W機能	件数	割合（％）
ニーズキャッチ	3,230	51.9
アウトリーチ	226	3.6
コーディネート	1,438	23.1
プラットフォーム	134	2.1
ネットワーク	1,170	18.8
ソーシャルアクション	31	0.5
合計	6,229	100

(3) 市地域福祉計画推進事業の推進【市受託事業】

地域福祉活動の担い手づくりについては、地域福祉リーダー研修会やふれあい・いきいきサロンパワーアップ研修会や交流会を実施し、担い手育成、継続した関わりを目指すとともに、地域の新たな担い手発掘のためにボランティア入門講座を実施した。

また、第5次地区地域福祉活動計画の策定年のため、身近な圏域において地域住民が主体的に地域生活課題の把握や共有、課題解決に取り組む体制づくり、地域住民相互の支え合い活動の推進を目指し、各地区社協において策定委員会、福祉のまちづくり座談会等を企画し、課題の共有、参加参画の意識が醸成するよう働きかけた。

(4) 多機関協働体制整備事業の推進【市受託事業】

重層的支援体制整備事業の移行準備事業として多機関協働体制整備事業を市から受託し、市と協働して包括的な支援体制の構築のため、関係各課とのプロジェクト会議や、市内の相談支援に関わる事業所へのアンケートを通して、地域課題や地域資源の把握に努めた。また、複雑化・複合化した世帯に多機関で協働して支援にあたれるよう、支援会議（重層的支援会議）を行った。

ア 社協、社会福祉課調整会議等の実施

① 調整会議の実施

開催回数：7回（6/13、9/12、9/30、10/18、11/22、1/15、3/11）

内 容：年間スケジュールについて、支援会議（重層的支援会議）の開催について、プロジェクト会議の内容について、先進地視察研修について、市内の事業所に向けたアンケートの実施について、善通寺市における参加支援の取り組み状況について、市内の生活課題の取りまとめについて、情報連携シートの作成等についての打ち合わせ等検討を行った。

② その他の打ち合わせ

4/8：県社協の地域福祉部長に重層の取り組みについて相談

4/10：市社会福祉課と令和6年度の取り組み内容について打ち合わせ

5/1：琴平町社協越智会長（全国社会福祉協議会地域福祉推進委員会委員長）に重層の取り組みを活かした地域共生社会の在り方についての相談、及び「重層的支援体制整備事業研修会」の打ち合わせ

イ プロジェクト会議の実施

開催回数：4回（①7/17、②10/22、③1/30、④3/28）

内 容：①重層的支援体制整備事業について、令和6年度の取り組みについて
支援会議、重層的支援会議について
②先進地視察の報告、課題取りまとめシートについて
③多機関協働体制に関するアンケート結果について
関係機関それぞれの現場から見える地域生活課題について
情報連携シートの作成および活用について
④情報連携シートについて
令和7年度の取り組みについて

参加者（延べ人数）：96名

ウ 重層的支援会議 支援会議の実施（困難事例の検討）

① 第1回支援会議の実施（重層的支援会議をモデル的に実施）

日 時 令和6年4月26日

場 所 市役所4階 403会議室

内 容 3世代に渡り複合的な課題を抱える世帯への支援について

参加者 14名

参加機関 子ども課、保健課、社会福祉課（生活保護、生活困窮、障がい、重層担当）、市社協（生活困窮、CSW、重層担当）

② 第2回支援会議の実施（重層的支援会議をモデル的に実施）

日 時 令和6年7月3日

場 所 市役所4階 403会議室

内 容 制度の狭間にあり、ゴミの課題を抱える子育て世帯への支援について
（障がいや、子育て支援のサービスが使えない世帯）

参加者 14名

参加機関 子ども課、教育総務課、社会福祉課（生活保護、生活困窮、障がい、重層担当）、NPO法人子育てネットくすくす、市社協（生活困窮、CSW、重層担当）

エ 市各部長、課長、担当職員、社協職員研修

重層的支援体制整備事業研修会の実施

日 時 令和6年6月4日

場 所 ZENキューブ3階 研修会

内 容 包括的支援体制の構築 ～重層的支援体制整備事業のめざすもの～

講 師 琴平町社会福祉協議会 会長 越智 和子 氏
（全国社会福祉協議会 地域福祉推進委員会 委員長）

参加者 28名（市保健福祉部局 市社協職員）

地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制の整備（重層的支援体制整備事業の移行準備に取り組む）にあたっての理念やイメージを共有することができた。

オ 先進地視察研修

日 時 令和6年10月8日～9日

場 所 ① 滋賀県高島市 10月8日

② 滋賀県大津市 10月9日

内 容 ① 高島市つむぎあいプロジェクトについて
・官民連携による包括的支援体制の構築
・庁内・専門職連携の促進、体制整備の取り組み
②重層的支援推進室の取り組み内容について

参加者 8名（市保健福祉部局、市社協職員）

高島市で活用している情報連携シート「つむぎあいシート」を参考に、善通寺市でも多機関協働を行う際に活用できるよう、情報連携シートを作成し、プロジェクト会議で意見をいただいた。

大津市では、他機関協働体制整備事業の推進室を置いて、各課に兼務職員を配置し、情報連携がスムーズに行える仕組みを作っていることを学んだ。

両市とも、アプローチの方法は異なるが、支援者支援を軸に置いて取り組んでいることがわかり、大変参考になった。本市の状況も情報提供し、意見交換も行った。

カ 各分野、相談支援機関等の事業活動や相談事例の課題等の把握と共有

① 市内の事業所に向けた多機関協働に関するアンケートを実施

実 施 月 令和6年12月

対 象 者 善通寺市内の子ども・子育て相談、高齢・介護保険サービス、障がい・障害福祉サービス及び生活困窮に関する相談支援に従事する方

アンケート内容 多機関協働に関する設問10項目

（課題解決が困難となっているもの、又は解決できずに中断、終了したものや、他分野との連携の必要性、支援する中で連携した機関及び連携できなかった機関などの設問）

※QRコードまたはURLによるWeb回答

依頼機関 市内の事業所29か所（医療関係、子ども関係、介護関係（居宅介護支援）、障がい関係（相談支援事業所、就労継続支援（A型、B型）、児童の障がい関係）及び行政（市関係各課、中讃保健福祉事務所善通寺担当）、市社協（CSW、生活困窮、日常専門員、在宅福祉等）

回答件数 60件

② 各市町社協の重層的支援体制整備事業実施状況等の調査を実施

実 施 月 令和6年7月

依 頼 先 丸亀市社協、坂出市社協、さぬき市社協、琴平町社協、綾川町社協

調査内容 多機関協働の取組概要

キ 事業の周知、啓発

民生委員児童委員協議会や地区社協会長会において、重層的支援体制整備事業の移行準備に取り組みを始めたことについて周知を行った。

ク その他

各種研修への参加

① 令和6年8月9日 香川県主催「重層事業の都道府県キャラバン」に参加（1名）

② 令和6年9月4日 CLC 包括的な支援体制・重層的支援体制整備事業セミナー
「地域福祉としての包括的な支援体制整備・重層的支援体制整備事業をチームでつくる要点」に参加（1名）

③ 令和6年12月3日 全社協主催「第2回社協職員オンラインサロン ～テーマ「名古屋市南区社協：重層的支援体制整備事業の取組について」～」に

参加（2名）

評価と課題

- ・ 重層的支援体制整備事業については、令和8年度の本格実施に向けて、令和6年度に引き続き、多機関協働体制の整備を進め、善通寺市における包括的支援体制の整備について検討していく必要がある。
- ・ 地域ネットワーク会議においては、民生委員・児童委員、地区社協、香川おもいやりネットワーク参画法人、行政の専門職や相談窓口、スクールソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカーが共に学び、地域生活課題を共有し、課題解決に向けての多機関で話し合える場と顔の見える関係になる場として実施しており、本年度は10周年を迎えた香川おもいやりネットワーク事業の理念や取り組みについて改めて学ぶ機会を設けた。また、市社会福祉課から、善通寺市第4次地域福祉計画の概要や重層的支援体制整備事業について説明をいただき、その後のグループワークを通して多機関で話し合うことの必要性を共有することができた。
- ・ 課題に対応したネットワーク会議へ参加した。（災害対応、自立支援協議会、引きこもり支援者ネットワーク会議等）

2-2 地域福祉活動支援事業の推進

1 第4次地区（地区社協）地域福祉活動計画（地区社協活動事業）の推進支援

目標 日常生活圏域単位で地域の状況に応じた支え合い活動を活発化させ、生活課題を抱えた人が住み慣れた地域で安心して自立した生活ができるよう地域づくりを行う。

事業実績

(1) 地区社協の組織と活動の強化（別表2 36P～46P）

ア 地区社協活動を担う人材の育成

- ・ ふれあい・いきいきサロン研修会、サロン代表者会の実施支援
- ・ 地区社協役員研修会の実施支援
- ・ 地域福祉研修会の実施

イ 運営費事業費の助成

- ・ 助成金額 7,963,750円（共同募金助成金含む。）

ウ 地区社協担当職員の配置

- ・ 地区社協総会の支援、役員会や地区社協活動の企画や連絡調整、相談支援をした。

エ 見守り活動ネットワーク事業の推進

6地区で民生委員・児童委員と見守り活動推進員の連携による要援護者の見守り活動を推進した。また、地区ごとに連絡会や研修会を行い、見守り対象者や地域の課題など情報交換を行った。中央地区、南部地区については、見守り活動ネットワーク事業の立ち上げについては、地区地域福祉活動計画策定計画において協議をした。

オ 地域の拠点・居場所づくりの推進

住民主体の居場所づくりとして、東部地区社協主催「ミニここ家」と吉原地区社協主催「キッズここ家」の実施について支援を行なった。筆岡地区社協については、筆岡地区の新たな居場所「カフェふでおか」を試行的に実施した。

- ・ 東部：ミニここ家

日時 ① 令和6年 7月24日（公民館1、2階）

② 令和6年12月20日（公民館1、2階）

活動内容 ミニカフェ、ミュージック、健康福祉相談、ゲーム、折り紙コーナー

参加者 ① 94名 ② 83名（地区社協関係者、保健課、高齢者課、市社協含む）

- ・ 吉原：キッズここ家 in よしはら

日時 ① 令和6年10月 5日（公民館）

② 令和7年 2月22日（公民館）

活動内容 カフェ、ゲーム、昔遊び、ミニ防災、駄菓子屋さんコーナー

②では工作コーナーを追加

参加者 ① 103名 ② 104名（地区社協関係者、市社協含む）

・ 筆岡：カフェふでおか

日 時 令和7年3月8日（公民館1階）

活動内容 カフェ、キッズスペース（ゲーム）

参加者 37名（地区社協関係者、市社協含む）

カ 地区支え合い会議の企画、実施検討

生活福祉課題を抱えるケースについて、自治会や民生委員から相談を受け、市や社協、相談支援機関が出席し、地区支え合い会議を数件実施した。

キ 生活支援サービスの検討

移動スーパー等の相談等に応じ、情報提供等を実施した。

ク 地区社協役員、福祉委員等研修会の企画、実施

地区社協で取り組みたいテーマに応じ、研修会の企画相談、連絡調整等を実施した。

(2) 地区社協会長連絡協議会の開催

令和6年4月12日	・各地区社協の活動状況と新年度の取り組みについて ・第5次地区地域福祉活動計画に向けて ・市社協事業計画、地区担当について
令和6年6月26日	・第5次地区（地区社協）地域福祉活動計画について 策定のスケジュール、地域福祉研修会の実施、座談会について ・地区社協運営上の課題について ・高齢者等外出支援事業について ・市社協特別会費について
令和6年11月18日	・第4次善通寺市地域福祉計画について 市計画の策定について及び策定に係るヒアリングについて ・第5次地区（地区社協）地域福祉活動計画について 重点項目、座談会、各地区の進捗状況 ・高齢者等外出支援事業の現状について ・市社会福祉大会について

評価と課題

- ・ 地区社協会長会において、地区社協活動の現状や課題について情報交換、協議を行った。また第5次地区（地区社協）地域福祉活動計画の策定について、策定委員会の設置、座談会の実施に向け、策定のスケジュールや、意義目的、座談会の内容、重点項目など提案し、地区社協と市社協の連携により、活動が活性化するよう働きかけた。また各地区社協での取り組みの中で、給食サービスや見守り活動ネットワーク事業、サロン活動など活動を行っていくうえでの課題を話し合った。
- ・ 地域の居場所づくりについては、3地区で実施することができた。また、地区地域福祉活動計画で居場所づくりについて考えてもらうよう策定委員会で働きかけたり、地区社協役員研修で他県の居場所づくり事業を実施している社協等への見学の調整を行なうなど、地域での居場所づくりが広がるよう働きかけた。

2 第5次地区（地区社協）地域福祉活動計画の策定支援

目標 住民主体の小地域福祉活動を推進するため、各地区社会福祉協議会における第5次地区（地区社協）地域福祉活動計画の策定を支援する。策定にあたっては、これまでの活動を評価・点検し、地域の現状や課題を把握、共有しながら、今後の活動について協議する。

事業実績

(1) 地域福祉研修会の実施

日 時 令和6年8月5日（月）

場 所 善通寺市市役所 4階大会議室

内 容 みんなで創る はぐくむ 安心して暮らせるわがまちの計画づくり

～持続可能な地域づくりを一緒に考える～

講 師 社会福祉法人琴平町社会福祉協議会 会長 越智 和子氏

参加者 地区社協関係者49名、市職員（保健課、子ども課、高齢者課、社会福祉課）6名、市社協職員 9名 四国学院実習生 2名

(2) 策定委員会の実施に向けて、連絡相談

各地区の策定委員会の設置に向け、第4次計画の実施状況を整理し、振り返りを行った。また、地区ごとの福祉指標、市アンケート結果、座談会で話し合った課題や今後の取り組み等の意見を参考にし、第5次計画内容を検討し、計画案を作成した。

(3) ふくしのまちづくり座談会の開催

7地区社協において、計8回、地区社協と市社協の協働で開催、地区社協関係者や地域住民の方にもご参加いただき、地区のお宝、課題、今後の取り組み住民同士の支え合い活動の必要性や、見守り活動ネットワーク、居場所づくり等についても検討する機会となった。

開催状況

東部地区①	令和6年11月21日	地区社協役員 15名
東部地区②	令和7年 1月17日	地区社協役員、見守り活動推進員 36名
西部地区	令和6年12月19日	地区社協理事 21名
南部地区	令和7年 3月19日	地区社協理事、自治会、環境推進連合会 13名
与北地区	令和7年 1月24日	地区社協役員、福祉委員 20名
竜川地区	令和6年10月30日	地区社協理事 16名
筆岡地区	令和6年12月10日	地区社協役員、自治会、見守り活動推進員 40名
吉原地区	令和6年11月23日	地区社協役員、福祉委員、サロン代表 62名

(4) 計画書作成支援

評価と課題

第5次地区（地区社協）地域福祉活動計画づくりを通じて、地区ごとに活動の振り返りができ、地区内の現状と課題に気づき、新たな取り組みを考える機会となった。また座談会を通じ、地区内の人口状況や世帯状況の変化なども踏まえ、新たな活動への転換なども地区社協役員だけでなく、自治会長や福祉委員など住民同士で一緒に考える機会にもなった。さらにこれからの計画推進の5年間のなかで活動のあり方の見直しや、財源（市社協会費や共同募金等）の課題、担い手の確保など課題も多いが、住民の皆さんと協議する場づくりをすすめる地域支援の在り方を、地区担当職員と共有しながら、実施したい。

3 ふれあい・いきいきサロン事業の推進

目標 地域の支え合い、閉じこもり防止及び介護予防を目的とし、利用者及び運営ボランティア等の参加参画で小地域ごとに自主的な相互支援活動としてのサロン活動を展開した。

事業実績

(1) サロン結成

97グループ（5年度実績：99グループ）

ア サロン結成運営支援

イ 活動の企画相談支援

ウ 活動費助成：総額 946,000円助成

エ レクリエーショングッズの貸し出し：18件

オ 各地区のサロン代表者会、交流会への協力

中央：令和7年3月20日（観光交流センター）

東部：令和7年3月13日（公民館）

西部：令和7年3月22日（公民館）

南部：令和7年3月14日（公民館）

竜川：令和7年2月21日（公民館）

筆岡：令和6年5月29日、9月20日、令和7年3月5日（公民館）

吉原：令和6年7月24日、令和7年3月12日（公民館）

(2) リーダー等研修開催

ア ふれあい・いきいきサロンパワーアップ研修会の開催

日 時 令和6年10月25日（金）13:30～15:00

場 所 ZENキューブ 4階多目的室

内 容 「サロンでつながり！地域力アップ！」

講 師 あそびとお話のデリバリードコデモ 榎本 英樹氏

参加者 66人（サロン代表者等）

イ ふれあい・いきいきサロン交流会

日 時 令和6年10月25日（金）15:30～16:30

場 所 ZENキューブ 4階多目的室

参加者 17人

(3) サロン活動の啓発

広報誌（年4回発行）において、サロン活動を紹介した。

評価と課題

- ・ 高齢化によって、参加者の減少やリーダーの後継者がいないなど活動が続けられないことや、リーダーが活動を続けていくことに負担を感じていることなどが課題となっている。
- ・ 市内のサロン関係者を一同に集めてサロンパワーアップ研修会を開催し、地域でサロン活動を広げていくための考え方やサロン活動の素晴らしさについて講師の先生にお話しいただいた。また、サロン活動をする上でのアイデアやサロンで抱える悩みごとを気軽に話し合えるように交流会を開催し、情報交換・交流をすることができた。
- ・ ご近所でのサロン活動は限界があり、参加者は減る一方でグループの存続が難しいという声もあるため、エリアの拡大等新しいサロン活動の在り方を検討していく必要がある。

4 地域の居場所づくり事業の推進

目標 ひきこもりの状態にある方の家族が安心して過ごせる居場所事業を行う。また、地域において住民主体の居場所づくりが進められるよう検討する。

事業実績

ひきこもりに関する居場所事業の実施

(1) ひきこもり家族のつどい 2回実施（5/23、11/21）参加者2名、スタッフ3名

11月は参加者がいなかったため、市のひきこもり担当者、ひきこもりに関する居場所やひきこもりに関するフォローアップ研修等の打ち合わせを行った。

(2) ひきこもりに関するミニ勉強会【第1回】

日 時 令和6年8月22日（木）14:00～15:30

場 所 ZEN キューブ3階 研修室

内 容 「ひきこもりの子どもに親としてできること

～一緒に面白がる、一緒に考える、一緒に苦しむ～」

講 師 香川県ひきこもり相談員 小柳 晴生 様

参加者 地域住民、ひきこもり当事者・当事者家族、ひきこもり支援者・市職員 等 22名

(3) ひきこもりに関するミニ勉強会【第2回】

日 時 令和7年2月20日（木）14:00～15:30

場 所 ZEN キューブ3階 研修室

内 容 「地域とつながるひきこもり支援」

講 師 特定非営利活動法人 みよしサポート協会ぴあぞら 理事長 天野 雄二 様

参加者 地域住民、ひきこもり当事者・当事者家族、ひきこもり支援者・市職員 等 24名

評価と課題

- ・ ひきこもり家族のつどいを定期的、継続的に開催することで、少しずつ家族が安心して本人について話せる居場所となっており、本人の様子や家族の状況、病院受診に世帯の近況が把握できる環境となっている。また、家族同士が情報交換を行うことができ、交流を図れる場となっているが、令和5年度は参加される家族が少なかったため令和6年度は、ひきこもりに関するミニ勉強会と交互に開催し、幅広い家族の方が参加しやすいよう広報誌や HP、SNS などを活用し、広く周知を行った。
- ・ ひきこもりに関するミニ勉強会は市内外から参加があり、講師の研修内容も好評であった。今後も家族や支援者が参加しやすく、ひきこもり当事者や家族が元気になれるような研修を開催していく予定である。

5 高齢者等外出支援事業の推進

目標 高齢者等の日常生活支援や生きがいづくり又は社会参加を促進し、閉じこもり防止と介護予防を目的とし、外出支援自動車の運行を地区社協との協働で行う。

事業実績

- (1) 【生活支援型】買い物の支援（吉原地区社協）
 - ・ 利用者数 532人（5年度 526人）
 - ・ 運行回数 95回（5年度 89回）
- (2) 【生きがい社会参加促進型】温泉、四季の行事巡りなど（8地区社協）
 - ・ 利用者数 2,255人（5年度 2,137人）
 - ・ 運行回数 326回（5年度 319回）

評価と課題

- ・ 生活支援型は、買い物に行くことが難しい世帯等の増加もあることから、今後、吉原地区だけでなく、地区の拡大等、地区社協と協議、検討していく。
- ・ 生きがい社会参加促進型は、地区社協と協働し、サロングループを中心に貸出し、住民同士のつながり、ふれあいの機会が増え、認知度の高い事業の一つとなっている一方、全体の稼働率は72%となっており、コロナ禍を経て、利用するサロン等グループが減少していることが課題である。

6 障がい者福祉の推進

目標 障がい者や課題を抱える人が地域で安心して暮らせるように、その活動を支援する。

事業実績

- (1) 当事者組織の活動支援
善通寺市が実施する精神障がい者の居場所づくり事業「ふれあいポートぜんとうじ」に職員が参加した。
- (2) 福祉自動車貸出
 - ・ 利用回数 46回（5年度59回）
 - ・ 貸出車両 1台

評価と課題

福祉自動車貸出事業については、事故が起こった際の保険の取り扱いなどの課題があり、今後も継続して協議していく必要がある。

7 地域安心生活推進事業の推進

目標 居宅要援護者把握事業について、地域の日常的な見守り活動や緊急時に活用できるように、民生委員・児童委員と協働し実施する。

事業実績

- (1) 民生委員との協働による居宅要援護者把握事業の調査実施
 - ・ 見守り活動に活用することを目的とし、65歳到達者の訪問調査を民生委員・児童委員の協

力により実施した。安心キットについては、希望者に配布し自己管理していただく方法で推進した。(新規調査依頼件数 374件、うち登録同意数 109件、新規安心キット配布数 127件)

- ・ 民生委員や本人からの登録内容の変更を随時受け付け、要援護者台帳の更新を行なった。
- (2) 地域での見守り活動の推進
- ・ 民生委員・児童委員や見守り活動推進員、福祉協力員、また、ふれあい・いきいきサロンによる見守り、声かけを継続して行なった。
 - ・ 広報活動として、市社協広報紙「社協だよ！」において、各地区の見守り活動関連記事を掲載し、見守り活動の啓発を行なった。

評価と課題

- ・ 要援護者の情報を提供することで、民生委員による見守り活動に役立っている。
- ・ 要援護者台帳システムが活用しやすいように、システム作成者に依頼し、見直しを行なった。また、12月に市から受け取る新規情報については、民生委員ごとに情報提供できるように自治会情報をもとに振り分けているが、今年度から自治会未加入で振り分けができない対象者については、地区ごとに民生委員に依頼して協力いただき、早く正確に分けることが可能となった。

8 関係団体の運営に係る事務の受託

目標 関係団体の事務局事務を受託し、併せて活動を支援する。

事業実績

- (1) 民生委員児童委員協議会運営事業【市受託事業】
- ・ 市民児協事務局の担当（事務、会計、企画相談支援）
 - ・ 民協理事会、単位民児協への出席 120回
 - ・ 主任児童委員定例会、研修会への出席 7回
 - ・ 全員研修会、県、県民児協研修会等各種会議 10回
- (2) 老人クラブ連合会事務局事務【市受託事業】
- ・ 社会奉仕活動事業 5回
 - ・ 月例理事会等 12回
 - ・ 県老人会議等 11回

評価と課題

市民生委員児童委員協議会及び市老人クラブ連合会の運営が円滑に進められるよう事務局として連絡、調整、企画の支援が行えた。

9 物品貸出事業

目標 車椅子や福祉教育物品等を貸し出すことにより、生活支援や福祉教育の推進を図る。

事業実績

- (1) チャイルドシート貸出し
- ・ 新規貸出し 73件
- (2) 車椅子貸出し
- ・ 37件
- (3) 福祉教育物品等の貸出し
- ・ レクリエーション遊具 35件
 - ・ ボランティア、福祉教育備品 8件
 - ・ イベント関連 10件

評価と課題

チャイルドシート貸出については、需要は多いが、安全性の担保がなく、リスクマネジメントの観点から検討が必要である。

10 広報、啓発の推進

目標 地域の方への情報発信と啓発活動を推進し、地域福祉活動の理解を図る。

事業実績

- ・ 「社協だよ！」を年4回発行し、全世帯へ配布した。
- ・ 幅広い年齢層の方に情報を発信できるよう、Instagramを活用して地域の行事やお知らせ等をタイムリーにアップすることができ、幅広い年齢層の方からのフォローを得た。

評価と課題

- ・ 広報誌については、全世帯に配布し、社協の事業等について周知を図ることが出来た。
- ・ Instagram、Facebook 等を活用し、幅広い世代に情報を発信するとともにより親しみやすい投稿を心掛けた。

11 福祉教育推進事業の推進

目標 地域住民の福祉に関する理解と関心を高め、地域における主体的な福祉活動を活性化し、地域の福祉力を高めていく。

事業実績

善通寺市社会福祉大会の開催

日 時：令和6年11月30日（土） 13：30～15：30

場 所 善通寺市民会館大ホール

内 容 表彰式典、記念講演

記念講演 演題「つながりブギウギ～光る君へエールを贈ろう～」

講師 あそびの工房もくもく屋 事務局長 田川 雅規氏

参加者：400人

評価と課題

- ・ 表彰式典では、多年にわたり地域福祉の推進等に尽力された方々に感謝の意を表すことができた。
- ・ 記念講演では、参加者へ親しみやすく、分かりやすい情報を発信することができる講師を選定し、好評をいただいた。

12 生活支援コーディネーター業務の受託【市受託事業】

目標 日常生活上の支援が必要な高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持って在宅生活を継続していくために必要な多様な主体による生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築するため、支援ニーズとサービスの調査を行う。

事業実績

(1) 地域に不足する高齢者に対するサービスの把握

- ・ 地域支え合いセンターここ家で、地域住民の困りごとや社会資源等の要望について把握することに努めた。
- ・ 民生委員・児童委員や地区社協関係者から寄せられる相談の中で、高齢者の生活福祉課題を把握した。
- ・ 地区の地域福祉活動計画策定支援における座談会に出席し、地域住民の生活福祉課題を把握した。

- ・ サロン代表者会の情報交換会に参加し、サロン活動の現状や課題等について把握した。
- (2) 高齢者等ボランティアの発掘及び活躍する場の確保、サービス資源の創出
- ・ 食を通じた居場所「ここめし」と「ここめし女子会」をCSWと連携して開催した。(年6回)
 - ・ ここ家ワンデイシェフのアシスタント等協力者の募集を、広報等を通じて行った。
 - ・ ここ家ワンデイシェフのシェフやアシスタントの発掘や、地域で生活支援の担い手となる人材養成の研修企画をCSW等と一緒に検討し、協働でボランティア養成講座を開催した。(令和7年3月 食を通じたボランティア養成講座)
- (3) 個別支援、ニーズと地域支援のマッチング
- 民生委員や地域の方から寄せられた相談に対し、適切な機関や地域の居場所につなぎ、連携して対応した。
- (4) 生活支援・介護予防サービス協議体の開催等
- | | | | |
|---|-----|-----|---|
| ア | 第1回 | 日 時 | 令和6年 7月29日 14:00~15:00 |
| | | 内 容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援体制整備事業について ・ 令和6年度における介護予防や生活支援の事業に関する市の取り組みについて ・ 各団体の取り組み活動での課題や活動から見えてくる地域課題について |
| | | 参加者 | 21名 |
| イ | 第2回 | 日 時 | 令和6年11月18日 14:00~15:00 |
| | | 内 容 | 生活支援コーディネーターに寄せられた相談等について地域の居場所について(グループワーク) |
| | | 参加者 | 17名 |
| ウ | 第3回 | 日 時 | 令和7年 2月10日 14:00~15:00 |
| | | 内 容 | 第2回(地域の居場所について)の振り返り
高齢の一人暮らしや高齢者のみの世帯の生活について |
| | | 参加者 | 18名(グループワーク) |
- 市と社協で各回の前後に打ち合わせ及び振り返りの会を持ち、情報共有を行った。
- (5) 善通寺市生活支援等サービス協議体への情報提供
- ・ 協議体に1回出席し、社会福祉協議会が把握した高齢者の生活福祉課題について報告した。
- (6) 関係機関とのネットワークづくり、研修等への参加
- ・ 高齢者いきいき案内所交流会に出席(5月)
 - ・ 東かがわ市社協の生活支援コーディネーターから、東かがわ市社協の安心見守り隊(見守り活動ネットワーク)の研修会で吉原地区の見守り推進員や市社協の取り組み、事例紹介等を行ってほしいとの依頼があり、調整を行った。
 - ・ さぬき市大川町ボランティア協会の視察があり、ここ家の取り組みについて紹介し、交流を図った。(12月)
 - ・ 生活支援コーディネーター養成研修(基礎研修全8回)を受講した。(1名)

評価と課題

令和6年度は地域における生活福祉課題を把握することに重点を置き、協議体や民生委員、地域支え合いセンターここ家等に来られる地域住民の方々からのニーズ把握に努めた。次年度は、令和6年度に把握した高齢者等の生活福祉課題や協議体から出た意見を反映した取り組みを行っていく。

3 ボランティア活動部門

1 ボランティア、市民活動の推進

目標 市民による自主的なボランティア活動が展開しやすい環境を整えボランティア、市民活動を活性化させ、地域の生活課題への対応ができるボランティアの育成とそのネットワークづくりを目指す。

事業実績

(1) ボランティア・市民活動センター「ボラン家」の運営

- ・ フリースペース、活動紹介コーナー、情報発信コーナーの設置

開所日数：245日（月曜から金曜の9時から17時まで）

フリースペース利用者数：89人

手話サークルたんぽぽへの貸館による利用者数：265名

活動紹介スペースの利用（ミニ作品展：2回）

ボランティア団体紹介コーナーの設置

- ・ コミュニティかふえの運営支援（週1回 火曜日）

コミュニティかふえ実施回数：34回、来場者数：787人

(2) ボランティア情報提供、啓発

- ・ 「社協だよ！」Do ボランティアコーナー、ホームページでの啓発

ボランティア・市民活動センターの周知

Do ボランティアコーナーでボランティア（個人及び団体）を紹介（掲載：4回）

(3) ボランティアグループの支援、連携

- ・ ボランティア保険の加入促進

活動保険（団体、個人等）：31件（596人）、行事用保険：46件（1,665人）

- ・ 活動の相談援助

評価と課題

- ・ コミュニティかふえの運営支援として、SNS（Instagram）やチラシを使っでの情報発信を行ない、利用者が少しずつ増えてきた。今後も市のリズム遊び参加者等への声かけを行なって周知をしていく。
- ・ 地域の方の特技を紹介でき、生きがいづくりにつながる場として、ボラン家でのミニ作品展等の広報周知を充実していく。また、地域住民がボランティア活動に関心を持ち、活動につながるよう、ボラン家をプラットホームの場として活性化する必要がある。

2 災害ボランティア活動支援体制の整備

目標 災害時にボランティア活動が円滑かつ効果的に行えるよう、支援体制を整備するとともに、感染症にも対応したマニュアルの検証を行う。

事業実績

(1) 能登半島地震にかかる珠洲市災害ボランティアセンター等への応援職員派遣

日時：令和6年8月21日（水）～8月26日（月）（当初予定は8月27日までの派遣であったが台風10号接近に伴い前倒しとなった）

場所：珠洲市災害ボランティアセンター

(2) 香川県主催の中讃地区災害時の協働・連携体制強化研修会に行政担当課とともに参加した。

日時：令和6年10月15日（火）13：30～16：30

場所：多度津町役場

(3) 第12回東かがわ市災害ボランティアセンター設置・運営訓練に参加した。

日時：令和7年2月15日（土）9：30～11：30

場所：東かがわ市防災物資拠点施設

(4) 令和6年度災害ボランティアセンター設置・運営における連携を考える研修会に参加した。

日時：令和7年2月21日（金）13：30～16：30

場所；香川県社会福祉総合センター 6階研修室

(5) 災害ボランティアセンター運営を円滑に実施するため東かがわ市社協が実施する災害ボランティアセンター運営訓練に参加し、次年度、研修会も含め実勢に災害ボランティアセンター運営訓練ができる体制を検討する。

(6) ZEN キューブ本会事務所に災害ボランティアセンターを設置する予定ではあるが、災害の規模により使用できないことも考えられることから、市自治防災課、社会福祉課とともに代替施設として四国学院大学を使用できるよう協議を行った。

評価と課題

令和6年1月に発生した能登半島地震では、全国の社会福祉協議会からブロック派遣が行われた。善通寺市社協からも1名の応援職員派遣を行った。現地ではオリエンテーションとマッチングを行う部署に配属され活動をしつつ、運営のノウハウやkintoneを使ったシステムを実際に取り扱うことができた。今後発生が予想される災害に備え、持ち帰ったノウハウを生かすとともに県内のボランティアセンター運営訓練を積極的に行っている社協の協力を仰ぎ、善通寺市社協でも運営訓練が実施できるよう準備を進めることが必要と考えられる。

また、今以上に善通寺市と積極的に災害ボランティアセンター運営に係る擦り合わせや情報の共有等について協議していく必要がある。

4 相談支援事業部門

1 総合相談・援助センターの運営

目標 地域住民の様々な相談に気軽に応じ、専門相談機関への紹介又は連携を行い福祉サービス等の情報提供を行う。

事業実績

(1) 相談事業の実施

区分	回数	相談件数
法 律 相 談	14回	63件
法務登記相談	12回	34件
一 般 相 談	24回	10件

(2) 一般相談員研究協議会の開催

開催日時 令和6年3月5日（水）14：15～16：15

開催場所 ZEN キューブ 3階 研修室

研修内容 研修 相続と空き家問題

講師：下谷司法書士事務所 司法書士 木村亮輔 氏

一般社団 さぬき空き家サポート 代表理事 川崎聖子 氏

理事 森 良枝 氏

参加者 17名（民生委員等）

評価と課題

一般相談については、専門の相談窓口等が整備されたことにより相談件数が減少しているとともに社協の日常業務の中で相談対応ができていることから、要綱を一部改正し回数及び時間の変更について検討した。（令和7年5月から施行する。）

2 権利擁護支援事業の推進

目標 判断能力が不十分な高齢者、障がい者等が地域で安心して暮らせるように関係機関と連携を図りネットワークを構築し、福祉サービス利用援助事業、法人後見事業を推進する。

事業実績

(1) 福祉サービス利用援助事業の推進【県社協委託事業】

- ・ 専門員 3人、生活支援員 11人
- ・ 専門員研修会に参加 3回（権利擁護事業担当者会、日常生活自立支援事業専門員研修会等）
- ・ 生活支援員等研修に参加 1回（生活支援員等ブロック別研修会）
- ・ あんしん相談会への職員派遣 1名（ひまわりセンター）
- ・ 専門員実践力強化研修会 1名（全国社会福祉協議会）

【契約、相談状況】

- ・ 契約締結件数（令和6年度新規）

種 別	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	生活保護 (再掲)	合 計
契約者数(人)	2	0	2	2	3	6

- ・ 契約終了件数（令和6年度内）

種 別	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合 計
終了者数(人)	1	1	1	0	3

- ・ 実利用件数（令和7年3月末現在）

種 別	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合 計
利用者数(人)	8	12	8	4	32

・ 相談内容 ※重複あり（単位：件）

種 別	高齢者	知的	精神	その他	合計
福祉サービスの手続き	17	2	17	6	42
日常的な金銭管理	197	325	256	128	906
書類預かり	4	1	2	3	10
保健サービスの手続き	9	8	13	5	35
医療に関する事項	28	36	63	16	143
福祉サービスに関する苦情	0	0	0	0	0
今後の生活設計	317	1,105	580	265	2,267
本事業に関する問い合わせ	17	2	4	4	27
成年後見制度に関する問い合わせ	3	2	2	0	7
その他	106	70	152	42	370
初回相談	10	2	2	4	18
合 計	711	1,555	1,092	473	3,831

(2) 法人後見事業の推進と成年後見制度利用促進のための中核機関との連携

- ・ 令和6年度受任件数 後見：継続1件、新規2件（日常生活自立支援事業からの移行）
- ・ 成年後見地域連携推進協議会における実務者部会への参加（隔月計6回）
- ・ 権利擁護中核機関等連絡会議への参加（8月、3月に開催）

(3) 市民後見人養成研修の実施【市受託事業】【会議開催状況】

- ・ 市民後見人フォローアップ研修打ち合わせ 12回
- ・ 市民後見人養成についての打ち合わせ 2回
- ・ 中讃西圏域打ち合わせ 6/3(月)、7/2(火)、8/19(月)、10/24(木)

【事業実績】

- ・ 第1回 日時 令和6年5/29(水) 13:30～15:00
内容 講演「地域で支え合う市民後見人の役割」、グループワーク
参加者 10名
- ・ 第2回 日時 令和6年11/8(金) 13:30～15:00
内容 講演「落語と寸劇で成年後見を学ぼう」
参加者 18名
- ・ 第3回 日時 令和6年1/15(水) 9:00～12:00
内容 高松家庭裁判所丸亀支部見学
参加者 10名
- ・ 法人後見支援員登録者数 4名(内2名令和7年度委嘱)

【その他】

- ・ フォローアップ研修についてチラシの作成・配布、社協広報誌・市広報誌への掲載、四国新聞社へのプレスリリース、民生委員児童委員への周知、SNSでの広報、啓発等を行った。
- ・ 市民後見人養成研修修了者に対し、法人後見支援員の登録募集を行ったところ4名の方が登録された。その後の選考の結果、2名の方に対し令和7年度委嘱を行い、実際に活動していただく予定。

(4) 関係機関とのネットワークづくり

評価と課題

- ・ 福祉サービス利用援助事業、法人後見事業ともに利用相談の増加に伴って、事業の実施の体制を整えていく必要がある。
- ・ 単に金銭の管理だけではなく、複合的な課題を抱えている世帯が多く、生活困窮者自立支援事業やCSW担当者、また利用者が関係する施設や事業所、行政等の関係機関と連携し、密な情報交換を行うことで、重層的な支援に努めた。今後は世帯の生活課題を整理し、さらに連携強化し、本人の生活の質の向上に努めていく必要がある。
- ・ 善通寺市の中核機関と連携し、成年後見地域連携推進協議会における実務者部会へ参加（2か月

に 1 回) し、権利擁護支援体制に関する課題を協議するためのニーズ把握やケースの相談を行った。

- ・ 市民後見人フォローアップ研修を全 3 回開催し、養成研修修了者の研鑽や交流を行った。令和 7 年度も研修を継続的に行い、修了者、候補者の持続的な学習意欲の継続やモチベーションアップを図る。
- ・ 善通寺市における、市民後見人誕生への一歩として、法人後見支援員を創設することができた。
- ・ 日常生活自立支援事業から法人後見への移行を 2 名（共に後見類型）行った。今後も日常生活自立支援事業から後見制度へのスムーズな移行を中核機関と協働で進めていく必要があるが、職員が兼務で実施していることからこれ以上の受任件数増加については、市からの財源的な支援がなければ難しく、課題である。また、法人後見の受任数増加に備え、後見業務の効率化やマニュアル化、研修等による担当者のスキルアップを進め、被後見人の権利擁護が適切に行えるよう体制を整える。

3 ぜんつうじ生活自立相談支援センターつながるねっとの運営（市委託事業）

（生活困窮者自立相談支援事業の推進）

目標 生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮者の自立の促進に向けた自立相談支援等を進める。行政や関係機関との連携を促進する。

事業実績

(1) 自立相談支援事業の推進（市委託事業）

【相談実績】新規相談 207 件（令和 5 年度 344 件）

① 相談者

区分	本人	家族、親族	関係者（関係機関）	知人、隣人	その他
件数（件）	145	7	48	7	0

② 相談経路

区分	直接	関係者（関係機関）	その他
件数（件）	85	※122	0

※関係機関経由内訳

区分	社会福祉課	税務課	子ども課	高齢者課	市（左記以外の担当課）	病院
件数（件）	35	2	18	10	3	1

市以外の行政機関	民生委員・児童委員	ハローワーク	障害の相談支援機関	社協（県、他市町含む）	その他
2	6	6	4	15	20

③ 対象者性別

区分	男性	女性	不明、その他
件数（件）	88	117	2

④ 対象者の年代

区分	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
件数（件）	0	13	21	36	26	31	32

80代以上	不明
14	34

⑤ 相談内容（初回相談時） ※重複あり

区 分	件数（件）
病気や健康、障がいのこと	45
住まいのこと	40
収入、生活費のこと	150
支払、債務のこと（家賃、光熱費、医療費、税金、ローン等）	123
仕事に関すること（仕事探し、仕事上の不安、トラブル等）	53
家族との関係について（子育て、介護含む）	77
ひきこもり、不登校	19
食べるものがない	42
その他（地域との関係、日常の心配事等）	18
コロナ関係の相談	11

⑥ 相談継続状況

区分	相談継続	経過観察	終了
件数（件）	58	100	49

⑦ 支援申込みの有無

区分	申込み 有	申込み 無
件数（件）	47	160

⑧ 対応状況（前年度から継続している件数も含む。）

- ア 支援調整会議の実施 18回25ケース（プラン作成23件）
- イ 住居確保給付金の相談 7件（利用決定 1件、昨年度からの延長決定 1件）
- ウ 他事業の利用
 - ・ 家計改善支援事業 52件 ※詳細は(2)に記載
- エ 独自事業で対応
 - ・ フードバンクの利用 284件
（緊急支援として101件、夏の配布会で50世帯、年末の配布会で133世帯）
- オ 生活保護受給者等就労自立促進事業の利用 7件（うち、就労決定 1件）
- カ 債務整理等法律相談 7件
- キ 生活保護申請へのつなぎ 5件
- ク 一時生活支援事業の相談 2件（うち、利用決定 1件）

(2) 家計改善支援事業の推進（市委託事業）

【相談実績】新規相談 52件（令和5年度 52件）

延べ相談件数 745件

家計再生プラン作成 3件

① 相談者

区分	本人	家族、親族	関係者（関係機関）	知人、隣人	その他
件数（件）	50	0	2	0	0

② 相談経路

区分	直接	関係者（関係機関）	その他
件数（件）	2	50	0

※関係機関経由内訳

区分	社会福祉課	税務課	子ども課	高齢者課	市(左記以外の担当課)	病院
件数(件)	1	0	2	1	0	0

自立相談 支援機関	民生委員・ 児童委員	ハローワーク	障がいの 相談支援機関	社協(県、 他市町含む)	その他
42	0	0	1	3	0

③ 対象者性別

区分	男性	女性	不明、その他
件数(件)	23	29	0

④ 対象者の年代

区分	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80代 以上	不明
件数(件)	0	4	4	6	7	12	13	4	2

⑤ 相談内容(初回相談時) ※重複あり

区 分	件数(件)
収入に関すること	41
家計のやりくりのこと	41
支払いに関すること	45
債務に関すること	26
その他	0

⑥ 対応、支援内容等(初回相談時) ※予定、重複あり

区 分	件数(件)
家計管理に関する支援(家計表の作成、出納管理等の支援)	49
滞納(家賃、税金公共料金等)の解消に向けた支援	26
各種給付制度等の利用に向けた支援	14
債務整理に関する支援(多重債務者相談窓口との連携等)	23
貸付のあっせん	7
自立相談支援機関へのつなぎ	0
その他	2

(3) 生活困窮者を支援する事業の推進

- ・ フードバンク香川との連携を図り、食支援を必要とする方へ食料品を提供した。
- ・ 琴平町社会福祉協議会が全国食支援活動協力会から助成を受けて実施する「相談機能付き食支援体制整備事業」に参画し、中讃西圏域の社会福祉協議会が集まり、情報交換を行い、食を通じた相談支援の取組を行った。
- ・ コミュニティーソーシャルワーカーと連携し、複合的課題を抱える世帯への支援を行った。

(4) 関係機関とのネットワークづくり

年間を通して、ひきこもり支援関係者ネットワーク会議に参加し、ひきこもり支援に関わる支援者とのネットワークづくりを行った。自立支援協議会の精神保健福祉部会と発達支援部会に参加し、障がい関係の支援者等とのネットワークづくりを行った。

(5) 特例貸付の借受人へのフォローアップ支援との連携

特例貸付の借受人で償還の口座手続きや免除申請等の連絡がない世帯に対し、特例貸付フォローアップ支援の担当者と一緒に訪問等のアウトリーチを行った。また、年末に食料品の配布会と相談会を実施し、支援が中断していた方にもアプローチすることができた。

評価と課題

- ・ 自立相談支援事業に関して、初回相談は前年度に比べ137件減少しているが、継続支援で長く関わるケースが多く、支援調整会議の開催やプラン作成件数は前年度に比べ増加している。
- ・ 家計改善支援事業に関して、家計の問題だけでなく、複合的な課題を抱えた相談者が多く、自立相談支援や関係機関と連携しながら対応した。
- ・ 令和5年度から継続して行っている特例貸付のフォローアップ支援に関して、償還が困難な方へのフォローアップ支援を福祉資金の担当者と連携して行った。
- ・ 国の自立相談支援事業従事者養成研修（相談支援員養成研修）と家計改善支援事業従事者養成研修を受講し、事業全般と専門分野の学びを深めた。
- ・ 県社協主催の3担当（生活福祉資金、日常生活自立相談支援事業、生活困窮者自立支援事業）合同定例会や、生活福祉資金の説明会に参加し、ネットワークの構築や連携に努めた。
- ・ 地域関係者や香川おもいやりネットワーク事業、企業の協力により、夏と年末の2回、フードドライブと食料品の配布会を実施することができた。また、配布会に併せて相談会も実施したことで、支援が中断していた方等の状況を確認することができた。
- ・ 顧問弁護士に日常的に相談できる環境にあることで、法的な支援が必要な方をスムーズに法律相談につなぐことができた。
- ・ 住居確保給付金や生活困窮者自立支援金の利用がスムーズに行えるよう社会福祉課と連携して対応した。
- ・ 香川おもいやりネットワーク事業担当者と連携し、制度の狭間にある相談者への対応に努めた。

4 香川おもいやりネットワーク事業の推進

目標 地域の深刻化する福祉課題や生活課題に対応するため、香川県内の社会福祉法人や関係機関、団体が協働し、生活のしづらさを抱え支援を必要とする方をトータルで支える仕組みづくりを進める。社会資源やサービスの開発、人材の育成、福祉教育の充実、実施体制の整備に取り組む。

事業実績

(1) 総合相談支援（緊急的経済支援）

- ・ 経済支援に至らない相談 4件

(2) 施設や保健、福祉、医療等の関係者の連絡会の実施

ア 善通寺担当者会の実施

日時 令和6年4月25日 13:30～14:30

場所 ZENキューブ 2階ミーティング室

内容 ① 令和5年度香川おもいやりネットワーク事業の善通寺市社協における取り組み状況について

② 香川おもいやりネットワーク事業10周年記念事業の内容に関する意見について

③ 令和6年度の取り組みについて

参加者 香川おもいやりネットワーク参画法人 2法人 6名

イ 地域ネットワーク会議の実施

日時 令和7年3月17日 13:30～15:30

場所 ZENキューブ 4階多目的室

内容 ① 事業説明 香川おもいやりネットワーク事業について ～10周年を迎えて～
講師 香川県社会福祉協議会 地域福祉部長 十河真子 氏

② 事業説明 第4次善通寺市地域福祉計画について

講 師 善通寺市社会福祉課 課長補佐 小林正季 氏

③ グループワーク（地域における生活課題や社会資源、今後の取組について）

参加者 民生委員児童委員14名、地区社協関係1名、香川おもいやりネットワーク事業参画法人3名、専門相談機関・行政相談機関等9名、市社協8名 計35名

(3) 連携、協働による事業企画、事業の推進

ここ寄席、ここめし、ここめし女子会を実施した。

(4) 香川おもいやりネットワーク事業10周年総括セミナーに参加

評価と課題

- ・ 参画法人の施設担当者とおもいやりネットワーク事業の取組についての意見や課題、アイデア出しを行った。施設の人員体制の関係で、今年度の実施には至らなかったが、今後も話し合いの場を持ち、業務に負担のないところでの取組について検討していく。
- ・ おもいやりネットワーク事業に参画している民生委員から、それぞれの現場で解決が困難となっている事例について話し合う場を、地域ネットワーク会議の中で持てればとの意見をいただいた。単一の機関では解決が難しいケースについて、定期的に話し合える場が持てるよう、令和7年度は開催回数を増やし、地域ネットワーク会議を開催する予定。
- ・ 重層的支援体制整備事業の本格実施に向けて、香川おもいやりネットワーク事業や地域ネットワーク会議とも連携を図っていく必要がある。

5 生活福祉資金貸付事業の推進【県社協受託事業】

目標 低所得者又は障がい者、高齢者世帯などに対し、資金の貸し付けと必要な援助指導を行うことによって、生活の自立を促進する。

事業実績

(1) 資金の貸付

所得世帯、障がい者世帯、高齢者世帯に対し、必要に応じて資金貸付と相談、支援を行った。

・ 相談件数：19件

・ 令和6年度申し込み件数：12件（内 貸付決定件数：11件）

貸付申し込み種別内訳

種別	内訳	件数（決定件数）
緊急小口資金	医療費、つなぎ資金	8件（7件）
福祉資金	福祉費	2件（2件）
教育支援資金	高校、専門学校、大学	2件（2件）

※福祉資金：住居の移転費

(2) コロナ特例貸付における債権管理事務及びフォローアップ支援

令和5年1月から引き続き償還開始となっている特例貸付の借受人を対象に、フォローアップ支援を行った。

① 債権の状態について（R7.3月末時点）

種別	内訳	決定件数
免除申請	非課税免除 次年度以降非課税免除 任意免除（生活保護、自己破産、死亡）	298件 19件 35件
猶予申請中	療養、離職、減収等	11件
償還完了	一括返済等	49件
償還中①	30日以内に償還あり	103件
償還中②	償還なし	199件
法的手続き中		4件

※コロナ特例全体の債権数としては718件、うち令和6年度免除対象債権数は80件

② 令和6年度相談対応実績

相談方法：来所47名、電話104名、訪問19名、その他8名

相談内容 (複数回答)	償還相談	50件
	猶予相談	21件
	免除相談	33件
	猶予中の支援	9件
	免除後の支援	8件
	未手続者対応	60件
	貸付制度以外の困りごと	2件

※ 令和6年度免除対象者、未応答者（償還等手続きが何も行われていない者）、償還実績のない者を中心にフォローアップ支援を行った。

評価と課題

- ・ 生活保護へのつなぎ資金は昨年に比べ減少してきている。
- ・ 教育支援資金は相談等を含め増加していき、貸付までに時間がかかるので早めの相談などを呼び掛けていく必要がある。
- ・ 自立相談支援機関や家計改善支援機関と協働し、歳末に食料品の配布会と相談会を実施し、支援が必要な方を相談につなげることができた。
- ・ 県社協主催の研修会や担当者会に参加し、相談援助の強化を図った。

5 善通寺市地域支え合いセンターここ家事業部門

目標 多種多様な取組みを地域住民が主体的に選択し、参加参画できるように企画し、連絡、調整する。また、複雑多様化する地域ニーズに対応できるよう、住民主体の多様なサービスを有した新たな介護予防と地域福祉活動の拠点の機能を最大限活かした支援を市全体で検討し構築していく。

事業実績

1 生きがいひろば事業の推進 (別表3 47P)

(1) 生きがいひろば事業の運営

- ・ 地域住民の趣味や特技を活かして、手芸や工作等の講座を実施し、参加者同士の交流を図り、いきいきと過ごせる居場所づくりを行った。また、夏休みには親子や祖父母と孫で参加できるアート教室を開催した。
- ・ 講座実施回数：165回（5年度：107回）
- ・ 講座利用人数：689人（5年度：689人）
- ・ その他の利用者数：1,087人（5年度：1,146人）
- ・ ボランティア数：109人（5年度：103人）

(2) ワンディキッチン運営支援

食を通じたコミュニティづくりを目指して、日替わりシェフの店なないろの運営を支援した。新たなつながり、支え合い活動を推進するとともに、地域住民が食を中心に気軽に寄れる居場所づくりを行った。

- ・ 開店日数：200日（5年度203日）
- ・ 利用者数：7,784人（5年度：6,779人）
- ・ シェフ、アシスタント数：458人（5年度：510人）
- ・ シェフの会：12回開催

(3) 発達障がい者等の居場所事業（ゆるゆるカフェ）

コミュニケーションに不安を抱えている方や苦手と感じている方を対象とし、2カ月に1回居場所を開催した。その中で発達障がいに関する相談が気軽にできるよう、アルプスかがわ地域サポート委員の協力のもと、年に2回相談会（カフェ de 相談）を実施した。

- ・ 開催回数：6回
- ・ 参加人数：参加者10人、スタッフ18人

(4) ここめし、ここめし女子会の実施

生活のしづらさを抱えた方や地域とのつながりが薄い方等が、食を通じて地域住民とゆるやかにつながれ、生活に困りごとが生じたときに気軽に相談できるような居場所としてここめしを、また、女性が気軽に寄れる場としてここめし女子会を実施した。

- ・ ここめし打ち合わせ会 年6回（5/28、8/19、9/2、11/11、1/20、3/10）
- ・ ここめし：開催5回（4/15、6/17、8/19、10/21、12/9、2/17）、延べ参加者176人、延べボランティア23人、延べ社協スタッフ40人
- ・ ここめし女子会：開催3回（5/13、9/2、3/11）、延べ参加者16人、延べボランティア12人、社協スタッフ12人

(5) ここ寄席の実施

地域で活動する方に自身の体験談や思い、将来取り組みたいことや夢などを語ってもらうことで、参加者（地域住民）の共感や気づき、学びの機会をつくることを目的として、年に4回実施した。

〔第1回〕令和6年5月27日

〔第2回〕令和6年9月9日

〔第3回〕令和6年12月16日

〔第4回〕令和7年3月17日

延べ参加者 68人、社協スタッフ 15人

評価と課題

- ・ 生きがいひろば事業は、地域住民の交流や新たに参加団体を増やし支え合い活動の場を提供し、仲間づくりを推進することができた。
- ・ 発達障がい者等居場所事業については、2か月に1回実施した。居場所の取り組みの一環として、アルプスかがわ地域支援サポート委員に相談員として来てもらい、居場所に参加する中で気軽に発達障がいに特化した相談が受けられる相談会（カフェ de 相談）も実施した。以前、自立支援機関で関りがあった方などの参加があり、長期的にゆるくつながりが持てる場となっている。
- ・ ここめしは、2か月に1回開催し、毎回楽しみに参加される方も多く、参加者と地域の方（ボランティアスタッフ）、参加者同士の交流が見られ、安心できる居場所となっている。また、社協での相談が終了した方が、地域で孤立することなく過ごせ、何かあった時にはいつでも相談できるという関係ができています。会の開催にあわせてスタッフ同士で打ち合わせの会を持ち、前回の振り返りや次回の開催にあたっての意見交換や情報共有を行うことで、参加者とのコミュニケーションが取りやすく、楽しんで参加してもらえる居場所となっている。
- ・ ここめし女子会では地域の方（ボランティアスタッフ）と一緒に調理をする機会が多く持て、作業をしながら楽しいひと時を過ごすことができた。
- ・ ここ寄席については、5年度は語り手の特技を活かした趣味の体験型の会が主であったが、6年度は交流を中心にして参加者との交流を楽しむ会とした。語り手に自分の好きなことやこれまでの生い立ちなどを自由に語っていただくことで、参加者側も自身のことを振り返る機会や新たな楽しみの発見の場になっている。

2 通所サービス事業（介護予防・日常生活支援総合事業）【市受託事業】

後掲（6 在宅福祉事業部門）

3 通所型一般介護予防事業（くすの木脳トレコース事業）【市受託事業】

後掲（6 在宅福祉事業部門）

6 在宅福祉事業部門

指定訪問サービス事業の利用者は大幅減となった。障害福祉サービス事業のサービス利用者は増となったが提供時間、回数は減となった。通所サービス事業利用者は減となったため高齢者課と利用者増に向けて協議を行った。

6-1 居宅介護支援事業

目標 住み慣れた地域での生活が継続できるよう地域の社会資源と協働しながら要介護者の自立支援を行う介護サービスの調整だけでなく生活全般を支援し生活環境の改善が可能になるよう、社協らしいプランを作成する。

達成基準 延べ利用人数年間：1,080人 月間：90人

事業実績 延べ利用人数年間：1,089人（5年度：1,067人）

6-2 ホームヘルプサービス

目標 支援を必要とする高齢者や障害者及び難病患者が在宅で生活を営むために必要な介護及び生活援助を行い、自立促進と社会的孤立の解消及び要介護、要支援状態への予防に努め、在宅生活を継続できるよう支援する。

(1) 障害福祉サービス（居宅介護、重度訪問介護、同行援護、移動支援事業）

達成基準 延べ利用者数：年間260人、時間数：3,250時間、回数：3,250回

事業実績 延べ利用者数：年間280人（5年度：274人）

延べ利用時間数：3,035時間（5年度：3,248時間）

延べ利用回数：2,750回（5年度：2,885回）

サービス種別	年間延べ利用時間（時間）	年間延べ利用回数（回）
身体介護	84：30	169
家事援助	2,408：30	2,106
通院介助（身体介護を伴う）	51：00	27
同行援護（身体介護を伴わない）	53：00	53
同行援護（身体介護を伴う）	225：00	155
移動支援	213：00	240
合計	3,035：00	2,750

(2) 訪問介護事業

達成基準 延べ利用者数：年間240人、時間数：2,400時間、回数：2,400回

事業実績 延べ利用者数：年間207人（5年度：221人）

延べ利用時間数：2,530：15時間（5年度：2,292：45時間）

延べ利用回数：2,803回（5年度：2,521回）

(3) 指定訪問サービス事業（介護予防・日常生活支援総合事業）【市委託事業】

達成基準 延べ利用者数：年間530人、時間数：3,500時間、回数：3,500回

事業実績 延べ利用者数：年間423人（5年度：547人）

延べ利用時間数：2,986時間（5年度：3,799：15時間）

延べ利用回数：2,992回（5年度：3,813回）

区 分		令和7年3月 (人)	令和6年3月 (人)	前年対比 (人)
(2) 訪問介護事業	要介護1	15	11	4
	要介護2	3	6	△3
	要介護3	1	0	1
	要介護4	1	1	0
	要介護5	0	0	0
(3) 指定訪問サービス事業	総合事業 要支援1	21	23	△2
	総合事業 要支援2	15	18	△3
合 計		56	59	△3

6-3 介護予防、日常生活支援総合事業（通所サービス事業）【市受託事業】

目標 脳トレなどの機能の活性化を目的とした介護予防レクリエーションを実施し生活にメリハリをつけるとともに、活動を通して、支えられるだけでなく地域でいくなすべき役割があることを認識していただき、地域で共に支え合う関係づくりを推進する。

達成基準 登録者数：50人

利用実績 登録者数：43人（5年度：55人）
延べ利用人数：2,889人（5年度：3,415人）
ボランティア延べ人数：144人（5年度：175人）

6-4 介護予防、日常生活支援総合事業（通所型一般介護予防事業（脳トレコース））【市受託事業】

利用実績 登録者数：59人（5年度：55人） 実施回数：99回（5年度：101回）
延べ利用人数：1,000人（5年度：942人）
サポーター延べ人数：458人（5年度：537人）

評価と課題

- ・ 居宅介護支援事業所の利用者は増加したが、訪問介護事業所利用者は入院、施設入所のため、減少した。
- ・ 通所サービス事業は、登録者の減により、収入が減少した。新規登録者の確保に向け、市地域包括支援センターと協議を行った。

7 共同募金運動への協力

目標 民間福祉活動を総合的かつ効果的に推進し、社会福祉への住民の理解を深める。共同募金運動に協力することによって、地域福祉の推進に貢献する。

事業実績

(1) 共同募金運動

- ・ 善通寺のまちをよくするプロジェクト募集 4月
- ・ 審査委員会の開催 2回 助成事業審査等
- ・ 運営委員会の開催 3回 共同募金推進計画等について
- ・ 募金実績

区分		目標額（円）	実績額（円）	達成率（％）
地区	中央	781,000	695,100	89.0
	東部	1,025,600	1,071,500	104.5
	西部	479,800	532,300	110.9
	南部	591,900	558,200	94.3
	与北	350,900	383,000	109.1
	竜川	966,900	904,900	93.6
	筆岡	649,800	783,900	120.6
	吉原	538,400	592,800	110.1
事務局		813,700	1,166,066	143.3
合計		6,198,000	6,687,766	107.9

- ・ 助成実績 令和5年度募金（令和6年度事業）

事業名	実績額（円）	助成先
地域福祉推進事業	2,030,897	地域福祉活動計画に基づく市社協の実施事業
小地域福祉活動事業	1,728,700	8地区社協
地域福祉活動支援事業	530,000	福祉団体、地域団体（16団体）
合計	4,289,597	

- ・ 災害見舞金給付金：0円
- ・ 災害たすけあい義援金：502,993円

募金先	募金額(円)
令和6年能登半島地震災害義援金	381,074
令和6年能登豪雨災害義援金	12,919
合計	502,993

(2) 歳末たすけあい運動

- ・ 募金運動については、婦人会及び自治会の協力で戸別募金、大口募金を実施。自衛隊営内居住者については、事務局から依頼した。
- ・ 歳末たすけあい運動実行委員会の開催 2回
- ・ 募金実績

区分	金額（円）
戸別募金、特別募金	1,896,300
営内募金	10,000
合計	1,909,600

- ・ 助成実績

種類	件数	助成金額（円）
児童福祉施設利用者	565	361,500
障害児（者）関係	71	71,000
準要保護児童等在宅関係	415	651,000
地区社協、婦人会、自治会、市社協	17	853,128
公募事業	1	6,000
合計	1,069	1,942,628

※ 募金実績 1,909,600 円と助成実績額 1,942,628 円の差額 33,028 円は前年度募金期間終了後に県共募に送金し、本年度に受け入れた 36,328 円及び本年度募金期間終了後に受け入れ県共募に送金した 3,300 円の差額である。

(3) 善通寺市歳末たすけあい運動協賛事業善通寺チャリティ美術展

- ・ 善通寺チャリティ美術展の実施
ZEN キューブ開館2周年記念イベントに合わせ開催した。
日時 令和7年1月26日（日）～1月28日（火）
10:00～16:00
場所 ZEN キューブ 3階特設会場
内容 県内外の有名寺院の名僧、著名な書家、美術家から寄贈された書、絵画、工芸品等を展示即売
出展作品数 232点 作品協力者 75人
チャリティ即売売上金 1,590,800円
※市社協地域福祉事業へ繰入金支出 800,000円

評価と課題

- ・ 共同募金及び歳末募金の実績額については、毎年度減少しており、募金百貨店、ガチャガチャ募金、自動販売機募金等を推進強化していく必要がある。

令和6年度会員会費の状況

(令和7年3月31日現在)

区分 地区	一般会費	賛助会費	特別会費	合計	世帯数(自治会 加入世帯数)
	上段: 会員数(人) 下段: 会費額(円)	上段: 会員数(人) 下段: 会費額(円)	上段: 会員数(人) 下段: 会費額(円)	上段: 会員数(人) 下段: 会費額(円)	
中央	856	30	54	940	1,095
	428,000	31,000	465,000	924,000	
東部	1,301	75	38	1,414	1,400
	650,500	76,000	355,000	1,081,500	
西部	646	94	28	768	655
	323,000	98,000	275,000	696,000	
南部	684	20	19	723	808
	342,000	25,000	175,000	542,000	
与北	464	28	6	498	479
	232,000	31,000	65,000	328,000	
竜川	1,320	54	35	1,409	1,320
	660,000	54,000	330,000	1,044,000	
筆岡	832	71	26	929	887
	416,000	82,000	265,000	763,000	
吉原	651	90	53	794	735
	325,500	93,000	505,000	923,500	
小計	6,754	462	259	7,475	7,379
	3,377,000	490,000	2,435,000	6,302,000	
その他			19	19	
			125,000	125,000	
合計	6,754	462	278	7,494	
	3,377,000	490,000	2,560,000	6,427,000	

前年度	6,871	488	302	7,661	
	3,436,000	514,000	2,735,000	6,685,000	
対比	98.3%	94.7%	92.1%	97.8%	
	98.3%	95.3%	93.6%	96.1%	

令和6年度 地区社協事業報告〈中央地区〉

(令和 6.4.1～令和 7.3.31)

目標	五重塔がはぐくむ支え合いのまち 中央地区	設立年月日	平成2年1月16日
----	----------------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	6/16 事業報告、監査報告、R6年度の事業計画案、予算案等	30名
監査	5/25	5名
役員会	6/4 総会資料作り	10名
	6/13 総会準備	6名
研修会	11/12 自治会と合同研修会	25名
サロン代表者会議	3/20 サロン事業の実施及び新年度の計画について	16名
地区地域福祉活動計画策定委員会	2/15 地域福祉活動計画素案作り	14名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型給食サービス	対象者 配食の担当 実施回数 延べ対象者数	75歳以上独居高齢者、80歳以上高齢者世帯等 民生委員 10回 (R6.1.1～R6.12.31) 661人 (R6.1.1～R6.12.31)
在宅要援護者安否確認事業	対象者 訪問担当者 訪問回数 延べ対象者数	80歳以上の独居、寝たきり世帯、高齢者世帯、障がい者等 民生委員 3,704回 (R6.1.1～R6.12.31) 2,684人 (R6.1.1～R6.12.31)
ふれあい・いきいきサロン	14グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数 53回、延べ利用者数 341人	

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
赤門八日市	毎月8日 赤門筋	薬師堂一般参拝者にお接待	一般参拝者 ボランティア役員 100名
中央自治会みかん狩り	11/24 西部みかん山	ハイキング及びみかん狩り	一般自治会員 小学生・父兄 200名
中央地区防災訓練	11/24 中央小学校	防災訓練	一般自治会員 消防団 小学生・父兄 200名
食育事業	1/17 中央小学校	5年生とダイシモチ麦粉入り豚汁作り	5年生 食改員 40名
中央小学校児童との交流事業	12/13 中央小学校	児童とのカローリング試合	4年生 会員 50名
1年生との交流	1/29 中央小学校	けん玉・コマまわし・折り紙・おはじき・だるまおとし等昔遊び	1年生 先生 長寿会有志 45名

令和6年度 地区社協事業報告〈東部地区〉

(令和 6.4.1～令和 7.3.31)

目標	支え合い、助け合うまち、東部地区	設立年月日	平成2年2月26日
----	------------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/22 事業報告、事業計画、役員改選等	61名
監査	5/1	4名
役員会	5/1 総会について、今後の予定	23名
	7/12 特別会員の推進及び集金について 「ミニこ家」開催の件	21名
	11/21 地域福祉計画策定に向けて「座談会」 同 策定委員会発足、「ミニこ家」開催の件 市社協からの連絡、社会福祉大会の件	16名
外部研修会	2/17 防災公園防災設備見学 (徳島県阿南市津乃峰防災公園)	33名
サロン代表者会	3/13 助成金の支給、サロン活動についての座談会	18名
見守り活動推進員連絡会	1/17 活動情報交換	41名
地域福祉活動計画策定委員会	11/21 座談会	17名
	1/17 座談会	46名
	2/27 素案作り	10名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型 給食サービス	対象者 配食の担当 実施回数 延べ対象者数	75歳以上独居高齢者、80歳以上高齢者のうち希望者 民生委員 10回 (R6.1.1～R6.12.31) 1,216人 (R6.1.1～R6.12.31)
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員・児童委員12人、見守り活動推進員55人
ふれあい・いきいきサロン	17グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数40回、延べ利用者数283人	

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
ふれあい会食会	5/18	公民館まつり招待	75歳以上一人暮らし、 80歳以上の方 234名
ふれあい会	11/27 東部幼稚園	園児による劇と遊戯の演技、ふれ あいタイム、主任児童委員による 出しもの、園児にプレゼント送る	幼稚園児 56名 高齢者参加者 66名 民生委員 10人 児童委員 13人
友愛訪問①	8/31	梨のお届け	75歳以上一人暮らし、 寝たきりの方 229名
友愛訪問②	2/21、2/22	赤飯のお届け	// 232名
居場所づくり① (ミニこ家)	7/24 東部公民館	ミニカフェ、ミュージック、ゲー ム、折り紙の各コーナー、健康福 祉相談コーナー	94名
居場所づくり② (//)	12/20	//	83名
敬老行事	9/14 他	商品券、記念品のお届け	1,128名
ウォーキング行事への協力	5回開催 市内各所	ウォーキング	自由参加
東部小学校交通安全、挨拶運動 への協力	4/12 5/15～17 東部小学校	民生委員、児童委員による指導	民生委員

◆ 広報誌の発行

広報の名称	東部地区だより	編集委員	地区社協三役、公民館運営委員等計 11 名
1 回あたり印刷部数	2, 000 部、1, 700 部	編集委員会 開催日	9 月下旬、3 月下旬（持ち回り）
1 回あたりの諸経費	34, 980 円（印刷代） （他に写真、テスト印刷等）	発行回数	年 2 回
配布方法	自治会全戸配布、公民館、 小学校・幼稚園	発行日	第 17 号 令和 6 年 9 月 30 日発行 第 18 号 令和 7 年 3 月 31 日発行

令和6年度 地区社協事業報告〈西部地区〉

(令和6.4.1～令和7.3.31)

目標	すべての人が安心して暮らせるまち西部	設立年月日	平成2年2月21日
----	--------------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者数
総会	5/26 R5年度事業及び会計報告、R6年度事業及び予算	35名
監査	4/10	4名
役員会	4/27 決算報告と来年度事業、総会の進め方について	20名
執行役員会	7/2 R6年度事業のすすめ方、当面の事業について	6名
	9/14 今後の事業、きずな4号の発行について (併にきずな(情報誌)編集委員会)	9名
	3/8 今後の事業について	7名
西部地区だより「きずな」 編集委員会	9/14 きずな4号の発行について	各9名
	3/8 きずな5号の発行について	
役員研修	10/29 岡山・真備「まびふれあい公園」	14名
地区地域福祉活動計画 策定委員会	9/14 第1回第5次福祉計画策定委員会	15名
	2/22 第2回第5次福祉計画策定委員会	15名
	12/19 福祉座談会	21名
サロン代表者会	3/22 サロンの活動計画、実施状況について協議	6名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型 給食サービス	対象者 配食の担当 実施回数 延べ対象者数	75歳以上の高齢者、要援護者 民生委員 10回 (R6.1.1～R6.12.31) 334人 (R6.1.1～R6.12.31)
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員・児童委員9人、見守り活動推進員21人
ふれあい・いきいきサロン	7グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数32回、延べ利用者数226人	

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
ふれあいハイキング大会	4/29 花公園	花公園までのハイキング、学習 参加高齢者の表彰	330名
市民体育祭西部地区大会	5/1 西部小運動場	運動会の競技	450名
善通寺まつり総踊りに参加	7/21		100名
高齢者盛夏日応援事業	8/21	お菓子を持って慰問	独居高齢者40名
四国健康村入湯の旅	7/10 四国健康村	観劇、入湯、交流	20名
公民館まつり	11/9	バザー、展示等	700名
長寿を祝う会	11/10 西部小体育館	式典、芸能発表	170名
三世代交流健康づくり スポーツ大会	3/2 西部小体育館	カローリングの地域別競技大会	80名
合同防災訓練	3/2 西部小体育館 及び校庭	①起震車体験②簡易担架の作り方、 運び方③発電機の方法	80名
独居老人への年賀状	12/25	小学生から独居老人への年賀状	高齢者等89名

◆ 広報誌の発行

広報の名称	西部地区だより「きずな」	編集委員	9名
1回あたり印刷部数	860部	編集委員会開催日	9/14、3/8
1回あたりの諸経費	約100,000円	発行回数	年2回
配布方法	単位自治会を通じて配布	発行日	第4号 令和6年9月30日発行 第5号 令和7年3月31日発行

令和6年度 地区社協事業報告〈南部地区〉

(令和 6. 4. 1～令和 7. 3. 31)

目標	誰もが生き活きと暮らせ 多彩でうるおいに満ち 共に創り共に助け合う 南部地区	設立年月日	平成2年3月12日
----	---	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/17 各委員へ総会資料を配布（書面表決により実施）	
監査	5/7	4名
外出支援事業打ち合わせ	3/14 外出支援代表と運営について	6名
ふれあいサロン打ち合わせ	3/14 ふれあいサロングループと今後の運営について 打ち合わせ	7名
地区地域福祉活動計画 策定委員会	2/20 第4次南部地区地域福祉活動計画の評価、 振り返り	5名
南部地区ふくしのまちづくり 座談会	3/19 見守りネットワークの組織づくりについて協議	18名

◆ 事業実績

事業名	事業内容
在宅要援護者安否確認事業	対象者 75歳以上の独居、寝たきり世帯、高齢者世帯等 訪問担当者 民生委員 訪問回数 1,450回（R6.1.1～R6.12.31） 延べ対象者数 1,211人（R6.1.1～R6.12.31）
ふれあい・いきいきサロン	6グループ
高齢者等外出支援事業	運行回数32回、延べ利用者数196人

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
一日ふれあい旅行	12/2 城山温泉	75歳以上の一人暮らしの方を対象とした 一日ふれあい旅行	会長 1名 副会長 2名 運営委員 1名 民生委員 8名 市社協 1名 招待者 36名
幼稚園児へ年末に お餅を配布	12/17 南部幼稚園	年末に一足早いお正月気分を味わってもら うためお餅を配布	会長 1名 副会長 1名 運営委員 1名
幼稚園児へ雛あられ 持参訪問	2/10 南部幼稚園	ひな祭りに南部幼稚園児に雛あられを持 参し訪問	会長 1名 副会長 1名 運営委員 1名
介護支援事業所へ クリスマス慰問	12/20 大杉病院	介護支援が必要な人へクリスマス慰問を 行い、お菓子・ジュースを持参	会長 1名 副会長 1名 運営委員 1名
三世代ウォーキング	3/8 南部公民館	南部地区の三世代を対象として、ウォー キングを行いスタンプラリーで楽しむ	75名

令和6年度 地区社協事業報告〈与北地区〉

(令和 6.4.1～令和 7.3.31)

目標	「向こう三軒両隣」からつながる地域づくり	設立年月日	平成2年2月20日
----	----------------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	6/21 各委員へ総会資料を配布（書面表決により実施）	
監査	6/7	
福祉協力員・民生委員の連絡会	4/5 令和6年度における福祉活動についての役割分担の確認	27名
地区地域福祉活動計画策定委員会	1/24 座談会	20名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型給食サービス	対象者 配食の担当 調理の担当 実施回数 延べ対象者数	60歳以上独居世帯、90歳以上のうち希望者 福祉協力員、民生委員 福祉協力員、ボランティア部員 12回（R6.1.1～R6.12.31） 392人（R6.1.1～R6.12.31）
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員・児童委員8人、見守り活動推進員19人
ふれあい・いきいきサロン	8グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数34回、延べ利用者数262人	

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
さつま芋栽培体験事業	5/8 借上農地	さつま芋苗植付作業	役員、民生委員、ボランティア、小学校児童、幼稚園児
さつま芋栽培体験事業	9/13 借上農地	さつま芋収穫体験	役員、民生委員、ボランティア、小学校児童、幼稚園児

令和6年度 地区社協事業報告〈竜川地区〉

(令和6.4.1～令和7.3.31)

目標	つながる たすけあうまち 竜川	設立年月日	平成元年12月15日
----	-----------------	-------	------------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/31 事業報告、事業計画等	96名
監査	4/20	6名
理事会	4/27 総会提出議案について	19名
執行役員会	4/20 総会について	6名
	7/12 事業執行について	6名
	11/20 事業執行について	6名
	2/21 事業執行について	5名
策定委員会	10/30 五色台国民休暇村にて座談会	25名
	11/20 事業振り返り	17名
	2/21 地域福祉活動計画素案作り	13名
福祉委員会	7/18 スキルアップ研修会	26名
	8/17 千手苑まどかにて三世代交流	16名
	9/26 独居高齢者交流（各家庭訪問）	150名
サロン代表者会	11/29 活動報告、情報交換	15名
	2/21 助成金、7年外出支援日配分	15名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型給食サービス	対象者 配食の担当 実施回数 延べ対象者数	75歳以上独居高齢者 民生委員 19回（R6.1.1～R6.12.31） 579人（R6.1.1～R6.12.31）
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員・児童委員10人、見守り活動推進員26人
ふれあい・いきいきサロン	13グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数42回、延べ利用者数295人	
居場所づくり	サロン・わいわい亭（活動人数 1,519人）	毎週火曜日実施

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
ふれあい夏祭り	8/17 千手苑	地域交流(夏祭り) 三世代交代会・施設慰問	230名

◆ 広報誌の発行

広報の名称	健やか福祉のたより たつかわ	編集委員	広報委員
1回あたり印刷部数	1,500部	編集委員会開催日	8/26、8/30、2/21、3/1
1回あたりの諸経費	59,400円	発行回数	年2回
配布方法	地域全戸配布	発行日	第31号 令和6年9月15日発行 第32号 令和7年3月10日発行

令和6年度 地区社協事業報告〈筆岡地区〉

(令和6.4.1～令和7.3.31)

目標	助け合い・支え合い・笑顔あふれる筆岡	設立年月日	平成2年2月26日
----	--------------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/26 R6 年度事業・会計報告、R7 年度議案審議	58 名
監査	4/4	4 名
役員会	4/26 総会資料協議、地区社協理事会について	10 名
	5/14 第 44 回広報誌編集委員会	7 名
	7/26 先進地視察研修、高齢者交流会	6 名
	9/10 策定委員会、地区社協業務の評価について	9 名
	11/22 広報誌編集委員会	7 名
	11/26 広報誌編集委員会	9 名
	2/4 策定委員会、第 5 次地区福祉計画について	9 名
	2/26 策定委員会、第 5 次地区福祉計画について	13 名
理事会	3/12 策定委員会、第 5 次地区福祉計画について	13 名
	5/17 総会資料についての承認	20 名
	9/10 第 1 回策定委員会	9 名
	12/10 ふくしのまちづくり座談会	45 名
	2/4 第 2 回策定委員会	9 名
地区地域福祉活動計画 策定委員会	2/26 第 3 回策定委員会	13 名
	3/12 第 4 回策定委員会	13 名
サロン代表者会	5/29 外出支援運行計画①7～9 月	11 名
	9/20 外出支援運行計画②10～12 月	13 名
	3/5 R7 年度外出支援計画、R6 年度活動助成金確認	13 名
見守り活動ネットワーク事業 (研修会、連絡会)	6/14 見守り活動説明会、グループに分かれて連絡会	19 名
先進地視察研修	10/28 岡山県玉野市玉原地区社協活動視察	17 名
高齢者交流会 実施説明会	10/8 高齢者交流、打ち合わせ会	42 名

◆ 事業実績

事業名	事業内容
ふれあい安否確認型 給食サービス	対象者 75 歳以上独居高齢者 配食の担当 民生委員 実施回数 11 回 (R6.1.1～R6.12.31) 延べ対象者数 415 人 (R6.1.1～R6.12.31)
見守り活動ネットワーク事業	担当者 民生委員・児童委員 8 人、見守り活動推進員 20 人
ふれあい・いきいきサロン	11 グループ
高齢者等外出支援事業	運行回数 51 回、延べ利用者数 352 人

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
高齢者交流会	10/20 筆岡小体育館	消費者セミナー、フレイル体操、ピアノ演奏	75 才以上独居高齢者等 214 名
独居高齢者一日旅行	1/20 四国健康村	観劇、入湯、交流	75 才以上独居高齢者等 37 名
公民館まつり	12/7・8 筆岡小学校	サロン活動展示、独居高齢者案内、フードドライブ	10 名
消費者セミナー研修会	10/24 筆岡公民館	香川県警講師による詐欺防止講演	36 名
カフェふでおか	3/8 筆岡公民館	居場所づくり (11 時～15 時実施)	37 名

◆ 広報誌の発行

広報の名称	福祉ふでおか	編集委員	執行役員
1回あたり印刷部数	1,000部	編集委員会開催日	4/26、5/14、11/22、11/26
1回あたりの諸経費	50,000円	発行回数	年2回
配布方法	自治会員に配布	発行日	第44号 令和6年5月22日発行 第45号 令和6年12月1日発行

令和6年度 地区社協事業報告〈吉原地区〉

(令和 6. 4. 1～令和 7. 3. 31)

目標	みんなで支えあい笑顔あふれる 吉原地区	設立年月日	平成元年6月28日
----	---------------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/26	69 名
監査	4/2	5 名
正副会長会	4/22 総会資料検討	5 名
役員会	4/27 総会開催について、総会資料審査・追加・訂正等	15 名
	7/10 善・公まつり、サロン活動助成金等について	14 名
	10/24 退任者へ表彰・感謝状等贈呈、歳末ふれあい訪問等について	15 名
	3/21 第 5 次吉原地区地域福祉活動計画(原案)について協議承認を得る、令和 7 年度事業計画に反映	16 名
総会準備	5/9 総会資料作成	2 名
	5/21 総会資料印刷・製本	6 名
	5/26 席配置・資料・記念品等の準備	7 名
役員・有認者会	1/29 合同研修会、キッズここ家 in よしはらについて	22 名
策定委員会	11/23 ふくしのまちづくり座談会	73 名
	1/29 第 4 次吉原地区地域福祉活動計画推進の状況を報告、市地域福祉活動画策定のためのアンケート調査結果の説明及び質疑応答	22 名
	2/9 ふくしのまちづくり座談会における意見結果の説明、第 4 次吉原地区地域福祉活動計画の評価、振り返り、現状と課題等から素案作成について協議	22 名
	3/5 素案を提案し、これまでの活動の継続を踏まえ、ご意見をいただき、第 5 次吉原地区地域福祉活動計画の原案作成について協議	21 名
買い物バス運行計画策定	3/9 運行計画策定(コース別添乗員・利用者名簿作成)	2 名
ふれあいサロン代表者会	7/24 サロン活動報告、公まつり参加(作品展示)、外出支援バス利用等について	23 名
	3/12 活動状況報告・意見交換、R7 継続申請書提出等について	20 名
合同研修会	3/21 講演「フレイル予防で健康長寿!『聞こえ』と認知予防について」講師 地域包括支援センター	49 名
みまもり活動連絡会	4/3 活動の問題点と反省(3 か月)、今後の活動について	15 名
	7/3 活動の問題点(3 か月)、今後の活動について	16 名
	10/2 活動の問題点と反省(3 か月)、今後の活動(研修)について	16 名
	1/8 活動の問題点と反省(3 か月)、今後の活動(意見交換)	16 名
みまもり活動連絡会研修	11/11 伊方発電所 施設見学並びに安全確保に向けた取り組みについて研修	28 名
歳末ふれあい訪問準備	12/14 記念品等の仕分け	18 名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型給食サービス	対象者 配食の担当 実施回数 延べ対象者数	80 歳以上独居高齢者、高齢世帯 民生委員 17 回 (R6.1.1～R6.12.31) 774 人 (R6.1.1～R6.12.31)
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員・児童委員 9 人、見守り活動推進員 9 人
ふれあい・いきいきサロン	21 グループ	
高齢者等外出支援事業	買い物支援バス: 運行回数 95 回、延べ利用者数 532 人 サロン外出支援バス: 運行回数 42 回、延べ利用者数 300 人	

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
地域の拠点・居場所づくり事業①（第1回検討会）	8/8 公民館	「キッズここ家 in よしはら」開催について、新しい催し物を取り入れる	策定委員、役員、市社協 16名
地域の拠点・居場所づくり事業①（第2回検討会）	9/5 公民館	催し内容にミニ防災コーナーを追加	役員、福祉委員、市社協 15名
地域の拠点・居場所づくり事業①（協議）	9/7 公民館	開催日を10月5日(土)10時からに決定	役員、福祉委員、市社協 22名
地域の拠点・居場所づくり事業①（準備）	10/4 公民館	決定事項:催し内容、各分担（責任者）、対象者（児童・保護者 62名）	役員、福祉委員、市社協 22名
地域の拠点・居場所づくり事業 第1回「キッズここ家 in よしはら」	10/5 公民館	内容：ゲームコーナー、カフェコーナー、むかしあそびコーナー、ミニ防災コーナー、だがしやさんコーナー、感想文掲示 参加者：62名(19組)児童 38名、保護者 24名、	役員、福祉委員、市社協、来館者、スタッフ 合計 103名
地域の拠点・居場所づくり事業②(第1回検討会)	1/9 公民館	第2回「キッズここ家 in よしはら開催」について、新規の催しものを取り入れる、はがきだこ作り	役員、福祉委員 市社協 17名
地域の拠点・居場所づくり事業（準備）	2/21 公民館	決定事項：催し内容、各分割(責任者) 対象者(児童・保護者 60名)	役員、福祉委員 市社協 17名
地域の拠点・居場所づくり事業 第2回「キッズここ家 in よしはら」	2/22 公民館	内容：ゲームコーナー、カフェコーナー、むかしあそびコーナー、ミニ防災コーナー、工作コーナー、だがしやさんコーナー、感想文掲示、反省会を執り行う 参加者：62名(20組)児童 38名、保護者 24名	役員、福祉委員、有識者、市社協、来館者、スタッフ 合計 104名
歳末ふれあい訪問	12/15 公民館	記念品等の配布 要支援者、80歳以上の 286名	23名

◆ 広報誌の発行

広報の名称	吉原地区だより	編集委員	北岡、村井、秋山、佐柳、、丸岡、尾崎
1回あたり印刷部数	1,000部	編集委員会開催日	第22号 9/14、9/26、9/28、10/3 第23号 1/16、2/6、2/13、3/3
1回あたりの諸経費	50,000円（年間）	発行回数	年2回
配布方法	各地区単位自治会長（運営委員）	発行日	第22号 令和6年10月1日発行 第23号 令和7年3月1日発行

善通寺市地域支え合いセンター「ここ家」

令和6年度利用状況

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	一回平均
開館日数(日)			24	24	23	25	24	22	25	23	23	22	21	23	279	23	
生きがいひろば	生きがいひろば	実施回数(回)	14	15	13	16	15	13	18	13	13	13	12	10	165	14	
		利用者数(人)	72	62	55	63	54	52	71	56	60	61	50	33	689	57	4.2
		その他の利用者数(人)	95	100	84	106	63	77	102	83	115	90	69	103	1,087	91	6.6
		ボランティア数(人)	10	10	10	9	9	9	10	9	9	9	8	7	109	9	0.7
	日替わりシェフの店 「なないろ」	開店回数(回)	17	18	16	18	18	16	19	17	15	16	15	15	200	17	
		利用者数(人)	658	727	611	680	681	611	707	647	606	641	601	614	7,784	649	38.9
		シェフ及び アシスタント数(人)	36	35	34	37	64	37	46	36	32	34	32	35	458	38	
	ゆるゆるカフェ (発達障害者居場所)	実施日数(日)	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	5	0	
		利用者数(人)	0	0	0	2	0	1	0	1	0	1	0	2	7	1	1.4
		スタッフ数(人)	0	0	0	3	0	3	0	2	0	3	0	3	14	1	2.8
	会議等センター使用	会議回数(回)	5	8	10	10	8	8	8	9	6	9	8	9	98	8	
		利用者数(人)	83	85	99	89	100	94	82	115	116	106	115	109	1,193	99	12.2
	ここめし	利用者数(人)	29	0	27	0	31	0	25	0	31	0	32	0	175	15	29.2
		スタッフ数(人)	10	0	12	0	11	0	9	0	10	0	11	0	63	5	10.5
	ここめし女子会	利用者数(人)	0	5	0	0	0	5	0	0	0	0	0	4	14	1	4.7
		スタッフ数(人)	0	9	0	0	0	9	0	0	0	0	0	8	26	2	8.7
	ここ寄席	利用者数(人)	0	14	0	0	0	17	0	0	15	0	0	20	66	6	22.0
		スタッフ数(人)	0	5	0	0	0	3	0	0	5	0	0	4	17	1	5.7
	計(1)	人数(人)	993	1,052	932	989	1,013	918	1,052	949	999	945	918	942	11,702	975	41.9
日常生活介護予防 支援総合事業	通所サービス	実施日数(日)	42	41	40	44	41	38	44	40	38	38	36	40	482	40	
		利用者数(人)	279	269	256	278	234	228	271	224	237	207	205	201	2,889	241	6.0
		ボランティア数(人)	15	12	13	12	12	12	11	11	12	10	10	14	144	12	3.3
	のびのび元気教室 (脳トレ)	実施回数(回)	8	9	8	9	8	8	9	9	7	8	8	8	99	8	
		利用者数(人)	92	84	76	89	65	71	84	88	79	84	92	96	1,000	83	10.1
		サポーター及び 運転手人数(人)	32	39	38	44	41	40	45	42	33	38	34	32	458	38	4.6
		その他	10	12	2	7	3	11	9	2	3	5	5	6	75	6	0.8
	計(2)	人数(人)	428	416	385	430	355	362	420	367	364	344	346	349	4,566	381	7.9
合計(1)+(2)			1,421	1,468	1,317	1,419	1,368	1,280	1,472	1,316	1,363	1,289	1,264	1,291	16,268	1,356	